

JAMAGAZINE

Japan Automobile Manufacturers Association

2015. October

#

49



特集 第44回東京モーターショー2015開催

一般社団法人 日本自動車工業会



The 44th

TOKYO MOTOR SHOW 2015

きっと、あなたのココロが走り出す。
Your heart will race.

第44回東京モーターショー2015

一般公開日：10/30(金)-11/8(日) 東京ビッグサイト

CONTENTS

特集 第44回東京モーターショー2015開催

第44回東京モーターショー2015 2

—ショーテーマ「きっと、あなたのココロが走り出す。」— (“Your heart will race.”)

各社出展車両のご紹介

四輪) いすゞ自動車株式会社……………4	三菱自動車工業株式会社……………22
スズキ株式会社……………6	三菱ふそうトラック・バス株式会社……………24
ダイハツ工業株式会社……………8	UDトラック株式会社……………26
トヨタ自動車株式会社……………10	ボルボ・トラック・ジャパン……………26
日産自動車株式会社……………12	二輪) 川崎重工業株式会社……………28
日野自動車株式会社……………14	スズキ株式会社……………30
富士重工業株式会社……………16	本田技研工業株式会社……………32
本田技研工業株式会社……………18	ヤマハ発動機株式会社……………34
マツダ株式会社……………20	

第44回東京モーターショー2015のイベント 36

第44回東京モーターショー出展者リストと会場案内 43

Topics

- 会長コメント 47
- 自工会・2015年 秋季交通安全キャンペーンのご案内
- 第44回東京モーターショー2015
 - 東京モーターショー発祥の地で60周年記念パレードを実施—
- 「大学キャンパス出張授業2015」の実施について
- 第12回「日本自動車会館 交通安全キャンペーン」イベント開催
- 第44回東京モーターショー2015 —10月29日(木)、東京ビッグサイトで開幕—
- 第44回東京モーターショー2015
 - “Mobilityscape Tokyo 2015”を開催 —プレス向けイベント—
- 第44回東京モーターショー2015 —オフィシャルスポンサー決定—



表紙イラストレーション

クルマのある風景

まつき
松木 めぐみ

東京藝術大学 美術学部 デザイン科 3年

色とりどりに葉の色を変えた秋の山の中を、たのしくドライブするようすを描きました。

『JAMAGAZINE』では表紙に、美術を専攻している大学生などの皆さんの作品を掲載しています。

第44回東京モーターショー2015

—ショーテーマ「きっと、あなたのココロが走り出す。」—
（“Your heart will race.”）

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：池 史彦）は、第44回東京モーターショー2015を本年10月29日（木）から11月8日（日）までの11日間（一般公開は10月30日（金）から）、江東区・有明の東京ビッグサイトにて開催します。

ショーテーマは、「きっと、あなたのココロが走り出す。」“Your heart will race.” としました。世界一のテクノロジーショーケースを目指す東京モーターショー。「きっと、あなたのココロが走り出す。」には、ご来場いただくお客様にとって、最新のテクノロジーとの出会いによる、心躍るような体験をお届けする場にしたいという想いを込めています。

今回のモーターショーは、世界11ヶ国から合計160社が参加し、国内全ての乗用車・商用車・二輪車メーカー14社15ブランド、海外メーカー16社26ブランドが出展します。ワールドプレミアは76台（乗用車42台、商用車6台、二輪車18台、カロッツェリア5台、車体5台）、ジャパンプレミアは68台（乗用車49台、商用車1台、二輪車15台、車体3台）が登場する予定です。

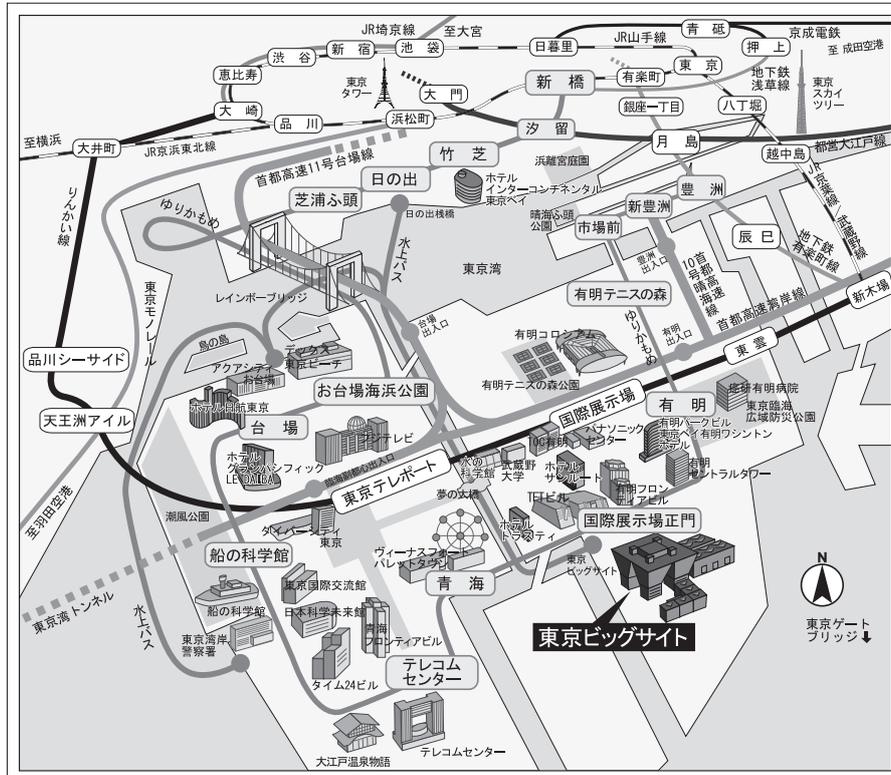
また、東京モーターショーのシンボルイベントとして今回で3回目を迎える主催者テーマ事業“SMART MOBILITY CITY 2015”は、「もっと自由に…クルマが変わる、暮らしが変わる、社会が変わる。」をテーマに開催します。クルマと人と都市との関わりをリアルに体験できる「明日の街」を再現した展示や、自動運転をテーマにした国際シンポジウム、自動運転・高度運転支援システムの体験などを組み合わせたユニークな企画となっています。

さらに、開幕前週の10月24日（土）には、第1回全日本自動車ショウ（1954年）が開催されてから、昨年2014年で東京モーターショーが60周年を迎えたことを記念して、「東京モーターショー60周年パレード」を行います。1950年代から各年代を代表する70台のクルマが、東京モーターショー発祥の地である日比谷公園に近い銀座みゆき通りをスタートし、日本橋、銀座を巡ります。

これらを始めとした様々な施策により、一人でも多くのお客様にお越しいただき、東京モーターショーを楽しんでいただきたいと思います。

◎第44回東京モーターショー2015 各社出展ブースのご案内

[東京ビッグサイトへのアクセス路線図]



☆りんかい線「国際展示場」駅下車 徒歩約7分、大崎駅（JR）から13分、新木場駅（JR、東京メトロ）から5分
 ☆ゆりかもめ「国際展示場正門」駅下車 徒歩約3分、新橋駅（JR、東京メトロ、都営地下鉄）から22分

[西1・2ホール]

- 日産自動車
- マツダ

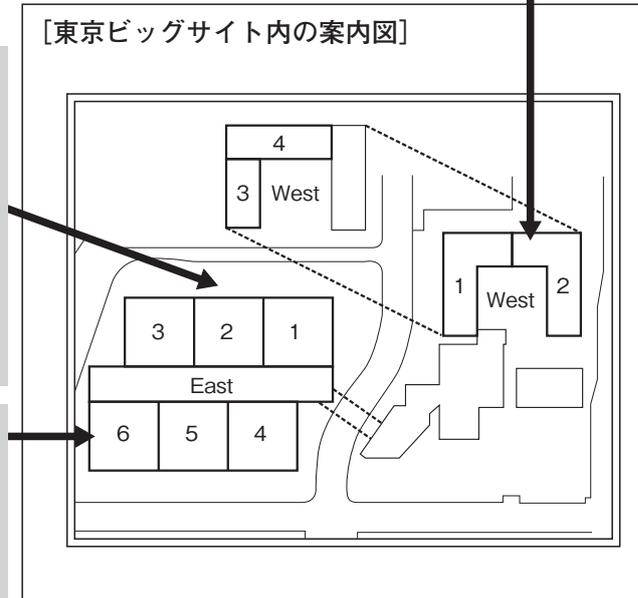
[東1・2・3ホール]

- いすゞ自動車
- 川崎重工業
- スズキ
- 日野自動車
- 本田技研工業
- 三菱ふそうトラック・バス
- ヤマハ発動機
- UDトラックス

[東4・5・6ホール]

- ダイハツ工業
- トヨタ自動車
- 富士重工業
- 三菱自動車工業

[東京ビッグサイト内の案内図]



いすゞ自動車株式会社

いすゞ自動車は、7台の車両（内、参考出品3台）、6基のパワートレイン（内、参考出品2基）などを出品する。「Always Next To You」ー暮らしのそばで、「運ぶ」は未来へーを出品テーマに、世界中の暮らしを、安心ですごしやすいものにするために、常に未来を見据えて新たな「運ぶ」を提案し続けてきたいすゞは、車両やエンジンなどのハードだけではなく、車両の省燃費性能や稼働効率を高めるためのソフトビジネスの両面をご紹介します。また、ワールドプレミアとして新型ギガを発表。

◇ギガ Gカーゴ



未来のあるべき姿を見据え、快適な運転環境の実現、省燃費の追求、安全の追求、高積載の確保、情報通信による遠隔サポートといった5つの視点で、その性能を磨き上げた新型ギガ。



ギガ Gカーゴ

◇TX80型5トン積みトラック

参考出展車

昭和20年代、大型長距離輸送車の先駆けとして日本の復興を支えた立役者であるとともに、今日のいすゞ自動車の礎を築き、「強力」「快適」「経済性」の3点から好評を博し、基本ポリシーが最新のGIGAにいたるまで連綿と受け継がれているTX80型5トン積みトラック。



TX80型5トン積みトラック

◇ギガ CNG-MPI

参考出展車

エネルギーセキュリティの観点から、大型トラックの天然ガス燃料車を新たに投入。都市間トラック輸送でのCO₂排出量を低減し、NO_x排出量が少なくPMをほとんど排出しない環境性能も魅力。東京ー大阪間を1充填で走行可能。

◇エルフ ハイブリッド

慣性を活用し、一定速走行時にはクラッチを切って省燃費運転に切り替え、駆動力の不足や速度が落ちた場合には、モーター走行でサポートすることで、切れ目のない省燃費運転を実現する「Smartグライド+e」や、モーターのみで静かに走れる「EVモード」など、新機能も搭載。



エルフ ハイブリッド

◇エルガ

本年8月18日に発表した新型エルガは、ノンステップエリア拡大や燃費性能改善と軽量化のため、ダウンサイジングした直列4気筒エンジンを搭載。トランスミッションは燃費重視型のAMTまたは動力性能重視型のATで全車2ペダルとなり、だれもが使いやすいイーゼードライブ性能を追求。



エルガ

◇フォワードFカーゴ

すでに搭載されている車線逸脱警報 (LDWS)、IESC (横滑り防止等の車両姿勢制御) に加え、今後、新機能として追加される、プリクラッシュブレーキ ([PCB]: 衝突被害軽減ブレーキ)、ミリ波車間ウォーニング (車間距離警報) の安全装置を完備した車両。



フォワードFカーゴ

◇ISUZU D-MAX X-SERIES Hi-Lander 4-door <海外生産・販売車両> 参考出展車

海外向けに展開しているピックアップトラックD-MAXの中でも標準モデルとは異なる赤いネームバッジ、スポーティさ、強さを兼ね備えた、海外の若者に好評を博している特別モデルX-SERIES。



ISUZU D-MAX X-SERIES Hi-Lander 4-door

スズキ株式会社

スズキブースのテーマは「SUZUKI NEXT 100」。2020年に100周年を迎えるスズキのめざすものづくりを表現し、「次の100年」に向けた取り組みを感じていただくための製品・技術を提案する。スズキは革新的なアイデアと最先端のテクノロジーで、あなたの未来にモビリティの選択肢を増やしていく。人とモビリティの次の100年のために、スズキは走り始める。今回のブースでは、メインステージに、コンパクトクロスオーバーの楽しさを広げる「IGNIS-Trail concept (イグニス トレイルコンセプト)」、オープンデッキを備えた軽の新提案「MIGHTY DECK (マイティデッキ)」、新発想のコンパクト3列シートミニバン「Air Triser (エアトライサー)」の、3つの参考出品車を展示。サブステージでは、四輪の参考出品車、新ジャンルに挑戦するコンパクトクロスオーバー「IGNIS (イグニス)」を2台展示する。また技術展示として、新開発エンジンのカットモデルをはじめ、次世代の技術を体験できる展示、スズキが取り組む環境技術、予防安全技術等を紹介。演出面では、メインステージに据えた約5m×30mの大画面での映像表現に加え、サブステージでの高精細LEDによる背景や、商品の特徴に合わせた床面素材の使い分けにより、スズキのさまざまな商品の使用シーンをわかりやすく伝えるための展示演出を施した。

◇MIGHTY DECK (マイティデッキ)

参考出展車



軽自動車の楽しさや使い方の新提案、新コンセプト軽自動車「MIGHTY DECK (マイティデッキ)」。

- ・さまざまな使い方に合わせて可動するオープンデッキ（荷台）とキャンバストップを備えた、「遊べる軽」の新しいコンセプトを提案する。
- ・“都会と自然” “ウチとソト” “オンとオフ” “リラックスとプレイフル” といった、相反する2つのシーンを自由に行き交う「アーバンアウトドア」をテーマとした新コンセプト軽自動車である。



MIGHTY DECK (マイティデッキ)

◇Air Triser (エアトライサー)

参考出展車



新発想コンパクト3列シートミニバンのコンセプト提案、プライベートラウンジ「Air Triser (エアトライサー)」。

- ・扱いやすいボディーサイズに広い室内空間と便利なシートアレンジを備えた、新発想のコンパクト3列シートミニバンである。
- ・プライベートラウンジをコンセプトに、オーナーの趣味やセンスを表現できる心地よい空間づくりを追求した。
- ・移動中だけでなく、駐車して仲間と過ごす時間にもこだわった、新しい価値観を持つ3列シートミニバンのコンセプト提案である。



Air Triser (エアトライサー)

◇IGNIS (イグニス)

参考出展車



小型車の新ジャンルに挑戦。オンにもオフにも使えるコンパクトクロスオーバー「IGNIS (イグニス)」。

- ・日常と余暇をクロスオーバーさせるクルマを提案する。ちょっと高めのアイポイントと、大きめにとったロードクリアランスによって日常で便利に使えるだけでなく、雪道や荒れた道でも安心して走れ、週末にはアウトドアを楽しむことができるコンパクトクロスオーバーである。
- ・圧倒的な存在感を持つコンパクトなボディーに、シンプルながら愛着や親しみがあり、かつ新しさを感じさせるデザインを組み合わせた、新ジャンルのクロスオーバータイプの小型車である。



IGNIS (イグニス)

◇IGNIS -Trail concept (イグニス トレイルコンセプト)

参考出展車



クロスオーバーの楽しさをさらに広げる「IGNIS -Trail concept (イグニス トレイルコンセプト)」。

- ・小型車の新ジャンルに挑戦する「イグニス」に、特別なコーディネートを施し、魅力をさらに高めたコンセプトモデルである。
- ・都市から自然の中まで、あらゆるシーンで活躍するイグニスのフィールドのうち、ラフロードで力強く走るシーンを想定。新たな楽しさを訴求する。



IGNIS-Trail concept
(イグニス トレイルコンセプト)

◇Baleno (バレーノ)

参考出展車



ダイナミックでエレガントなスタイリング、最適なパッケージング、高いパフォーマンスを調和させた新しいコンパクトハッチバック「Baleno (バレーノ)」。

- ・デザイン、走行性能、燃費性能、実用性といったコンパクトカーに求められるすべての要素を洗練させて、高次元で実現した新しいBセグメントハッチバック。
- ・大人4人と荷物を載せてもゆったりと遠出できる後席居住性・荷室容量を確保している。



Baleno (バレーノ)
※画像は欧州仕様車

◇新型ESCUDO (エスクード)

参考出展車



スズキの4WDの資質を受け継ぎ、進化させたコンパクトSUV、新型「ESCUDO (エスクード)」。

- ・ジムニーやエスクードで長きにわたり培ってきた本格四輪駆動車やSUVとしての資質を受け継ぎながら、幅広いユーザーと時代のニーズに応えるべくあらゆる面で進化させた、新型コンパクトSUVである。
- ・初代エスクードから引き継がれてきた、特徴的なデザインと高い走破性を兼ね備えたパッケージングを基本に、先進的な安全技術を採用し、優れた燃費性能も実現した。



新型ESCUDO (エスクード)

ダイハツ工業株式会社

ダイハツ工業株式会社は、ワールドプレミアとなる4車種4台の参考出品車と、市販車10台及び各種技術を展示する。今回は『POSSIBLE! 明日の「できる」をダイハツと』をテーマに掲げ、人々の生活に寄り添う軽自動車をさらに進化させることで、日常生活に楽しさや喜びをプラスし、乗る人すべてが笑顔になるクルマづくりを各出展物で表現する。なかでも「NORI ORI (ノリオリ)」は、すべてのユーザーがまず直面するクルマに対してのハードルとして「乗り降り」に着目。イージーアクセスなスモールカーをめざし、超低床フロアと2ウェイアクセス大開口ドア、電動スロープを備え、ベビーカーから車いすまで幅広い用途で、乗り降りのしやすさを追求。“近未来のマルチユースコミューター”として提案する。「TEMPO (テンポ)」は、軽商用車の新しいカタチとしてFF*¹プラットフォームを最大限に活用した“新ジャンルスペース系商用車”を提案。今回は、FF車のメリットである室内空間の自由度の高さを訴求すべく移動販売車とした。運転のしやすさや乗降性の良さなど、FF車の特長を商用車に活用することで、新たな市場の開拓をめざす。その他、ニューベーシックスモールとして、ダイハツが考える次世代のスモールカーのあり方を提案した「D-base (ディーベース)」や、デザイン性とスペース機能の融合による新しいラウンドデザインの軽自動車を提案する「HINATA (ヒナタ)」などを出展する。また、今回は9月9日に発表したキャスト スポーツの発売モデルや、キャスト アクティバ、キャスト スタイルのモーターショー特別色(参考出品)の展示も行う。技術展示は、身近な軽自動車の技術やダイハツが描く燃料電池による将来の暮らしの姿を、五感で体感できる体験型エリアとして、お子様から大人まで多くの方々に、ダイハツの技術をご理解いただける展示内容とする。

*1: Front-engine Front-drive (前輪駆動)

◇NORI ORI (ノリオリ)

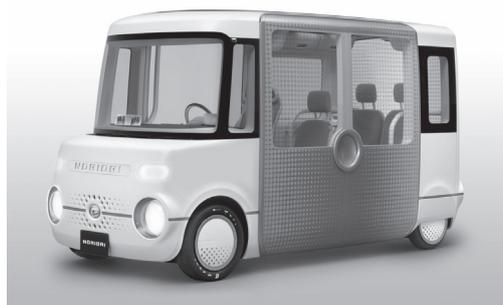
参考出展車



“近未来のマルチユースコミューター”

イージーアクセスなスモールカーをめざして、すべての人がまず直面するクルマに対してのハードルとして「乗り降り」に注目。

- ・ニールダウンシステムによる超低床フロアで、圧倒的な乗り降りのしやすさを実現。
- ・大開口の2ウェイアクセスドアで、車両の横からでも後ろからでも乗り降り可能。
- ・助手席側に収納式スロープを設定し、リヤにはフロアリフトを備え、さらにフラットフロアで車内での移動もラク。
- ・折りたたまずに2台の車いすを乗せることが可能な室内空間。



NORI ORI (ノリオリ)

◇TEMPO (テンポ)

参考出展車



“新ジャンルスペース系商用車”

FF車のメリットを最大限に生かした新しい商用車の提案。

- ・室内空間の自由度を生かした移動販売車。
- ・助手席側はLED照明付の大型ガルウイングドアを採用。
- ・カウンターテーブルを組み込んだショーケースを設定。
- ・車両側面にはデジタルサイネージを装備し、お店の看板として活用可能。



TEMPO (テンポ)

◇D-base (ディーベース)

参考出展車



ニューベーシックスマールカーの提案。

- ・e：Sテクノロジーを進化した内燃機関の追求による次世代環境車。
- ・スタイリッシュなエコ&スマートデザインで先進性を表現。



D-base (ディーベース)

◇HINATA (ヒナタ)

参考出展車



デザイン性とスペース機能の融合による新しいラウンドデザインの軽自動車を提案。

- ・ナチュラルリラックスを表現したデザイン。
- ・両側観音開きドアによる開放感と多彩なシートアレンジ。



HINATA (ヒナタ)

トヨタ自動車株式会社

TOYOTAは、クルマの本質的な魅力である、走る喜び、使う楽しさの新たな可能性を提案。未来のモビリティライフ創生に挑戦するTOYOTAの姿勢を提示し、未来に向けチャレンジする、さまざまな参考出品車を世界初披露する。車両以外では、いつも寄り添うコミュニケーションパートナー「KIROBO MINI」を紹介する。

◇PRIUS

参考出展車



1997年の世界初となる量産ハイブリッド乗用車として発売以来、優れた環境性能をはじめとするクルマの先進性から世界におけるハイブリッド車の普及促進に貢献。「TOYOTA New Global Architecture (TNGA) *1」を初採用した次世代ハイブリッド専用モデル。

*1 トヨタが全社を挙げて取り組む、クルマづくりの構造改革。パワーユニットとプラットフォームを刷新し、一体的に新開発することにより、クルマの基本性能や商品力を飛躍的に向上させることをめざす。



PRIUS

◇TOYOTA C-HR Concept

参考出展車



TOYOTAデザインの新たな方向性を具現化するとともに、クロスオーバー市場の中で際目を引く独自の個性を創生。コンパクトなボディサイズに、優れた環境性能と軽快な走行性能を、大胆に融合させた新世代コンパクトクロスオーバーコンセプト。



TOYOTA C-HR Concept

◇TOYOTA S-FR

参考出展車



クルマを運転する楽しさを教えてくれるTOYOTAライトウェイトスポーツの系譜を継承。自分の意のままにクルマが反応し、日常使いの中でもクルマとの対話ができる、そんな楽しさをエントリーモデルに追い求めたコンセプトモデル。



TOYOTA S-FR

◇TOYOTA FCV PLUS

参考出展車



水素エネルギーが普及した持続可能な社会。そこでは、さまざまな一次エネルギーからクリーンに水素が生成され、エネルギーの地産地消が広がる。燃料電池自動車（FCV）は、単にエネルギーを消費するだけでなく、社会に分散する電源ともなる新たな役割を担う。エコカーからエネカーへ、もっとクルマが愛される存在になる将来の燃料電池自動車コンセプト。



TOYOTA FCV PLUS

◇ TOYOTA KIKAI

参考出展車



機械は本来、人間の思想や情熱、知恵が生み出した愛すべき存在。クルマを人の手が生み出す「機械」ととらえ、その精巧さ、美しさ、素朴さ、あたたかさ、動きのおもしろさなどの豊かな魅力で「人とクルマ（機械）の関係再構築」をめざす。従来のクルマの常識にとらわれない新たな魅力を提案するコンセプトカー。



TOYOTA KIKAI

LEXUS

LEXUSは、2015年内に日本で発売を予定している、新たな“F”モデルの高性能スポーツセダン「GS F」と、今夏米国で発表した「GS」のマイナーチェンジモデルを日本初公開する。近日発売予定のプレミアムクロスオーバー「RX」なども含め、全11車種を出展する。加えて、世界初公開のコンセプトカーを出展。詳細は、10月28日(水)13:30に東京モーターショー会場で公開する。

◇ GS F



“F”モデルが追求する、走るたびに心が躍り、笑顔になるクルマの基本要素であるサウンド、レスポンス、伸び感を大切にした高性能スポーツセダン。

- ・日本市場において2015年内に発売予定



GS F

◇ GS



アグレッシブかつ存在感あるデザインと、トップレベルの走行性能を兼ね備えた高級ミッドサイズセダン。

- ・日本市場において2015年内に発売予定。



GS

◇ RX

「RXでありながら、RXであることを超えていく」を命題に開発された新型プレミアムクロスオーバー。

- ・日本市場において、近日発売予定。



RX

日産自動車株式会社

日産自動車株式会社は、今回のショーで、世界初公開となるコンセプトカーとして、軽自動車EV「TEATRO for DAYZ」を出展し、新時代の若いカスタマーに対してクルマの新たな価値を提案する。また、9月にドイツで行われた2015年フランクフルトモーターショーでお披露目した「NISSAN GRIPZ CONCEPT」を日本初公開、さらに「NISSAN CONCEPT 2020 VISION GRAN TOURISMO」の最新バージョンも展示する。その他、参考出品として、搭載するバッテリーの容量を増やし、一充電走行距離の大幅向上を実現した「日産リーフ」、市販車をドレスアップした「エクストレイル ハイブリッド モードプレミア」、[ジューク 16GT FOUR パーソナライゼーション]、市販車に追加仕様を施した「スカイライン 350GT ハイブリッド Type-SP クールエクスクルーシブ」、[フーガ 370GT Type-S クールエクスクルーシブ]、「セレナ ハイウェイスター V セレクションⅡ」など、計20モデルを展示する。また西展示棟・2ホールに位置する日産ブースでは、上記に加え、自動運転機能をはじめとする日産の最新の取り組み、先進安全技術等を展示にて紹介する。

◇TEATRO for DAYZ

コンセプトカー



次世代カスタマーに向けた新しいクルマの価値を提案。

- ・2020年以降に運転免許を取得する世代を私たちはShare Nativesと定義した。彼らはこれまでとはまったく異なる価値観をクルマに求めている。それを具現化したのが軽自動車EV「テアトロ for デイズ」である。
- ・『真っ白なキャンバス』というコンセプトで開発した「テアトロ for デイズ」の最大の特徴は真っ白なインテリア。インストルメントパネルをはじめ、シートやドアリムはキャンバスとなり、彼らの自由な発想でインテリアをアレンジすることをサポートする。彼らのクリエイティビティは、「テアトロ for デイズ」を通じて仲間とシェアされ、より一層、仲間とのつながりは深くなってゆくであろう。
- ・また、EVである「テアトロ for デイズ」は、時に究極のモバイルバッテリーにもなるため、彼らにとってモバイルガジェットのひとつとして映るかもしれない。
- ・「テアトロ for デイズ」は、Share Nativesの自由な発想と創造力によって、新しい価値を生み出す素材となり、クルマとしてだけでなく、コミュニケーションツールとして支持されることであろう。



TEATRO for DAYZ

◇NISSAN GRIPZ CONCEPT

参考出展車



シリーズ・ハイブリッドEVシステム「Pure Drive e-Power」を搭載したスポーツクロスオーバー。

- ・今年のフランクフルトモーターショーで初披露となった「ニッサン グリップス コンセプト」は、欧州と日産のデザイナーが共同でデザインした、コンパクトクロスオーバーの性能と実用性、そしてスポーツカーのワクワク感とパフォーマンスを兼ね備えたコンセプトカーである。
- ・パワートレインには、電気自動車（EV）技術をベースにしたシリーズ・ハイブリッドEVシステム「Pure Drive e-Power」を搭載。高い静粛性とすぐれた燃費、そしてスムーズで素早いリニアな加速が可能となる。
- ・エクステリアデザインは、ダイナミックに流れる面とシャープなエッジが強いコントラストを表現するデザインコンセプト「エモーショナル・ジオメトリー」に基づいて形作られている。インテリアは、最近の日産車にすでに採用されている、グライディングウイング形状のインストルメントパネルを採用している。この洗練された軽快なデザインは、力強さとシンプルさを両立している。



NISSAN GRIPZ CONCEPT

◇NISSAN CONCEPT 2020 VISION GRAN TOURISMO

参考出展車

新しいボディカラーで存在感がアップ。

- ・2014年6月、英国のモータースポーツイベント「グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピード2014」にて初公開した「ニッサン コンセプト 2020 ビジョン グランツーリスモ」を展示する。同車は、「グランツーリスモ」シリーズを開発したソフトウェア会社「株式会社ポリフォニー・デジタル」と日産の協力のもと、「プレイステーション 3」専用ソフトウェア「グランツーリスモ 6」の「ビジョン グランツーリスモ」プロジェクトの一環として制作された。多くのプレイヤーがヴァーチャルな世界で、日産ならではの卓越したパフォーマンスとイノベーションを体験している。
- ・今回公開する「ニッサン コンセプト 2020 ビジョン グランツーリスモ」は、新たなボディカラー「Fire Knight」を身にまとい、日産のデザイン・シグネチャーのひとつであるVモーショングリルもさらに際立つデザインにリファインされた。これによりゲームの中でもより日産の存在感を高めることになる。

※「プレイステーション」及び「グランツーリスモ」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標。



NISSAN CONCEPT 2020 VISION GRAN TOURISMO

◇日産リーフ

参考出展車

走行距離を大幅に向上するとともに自動ブレーキを標準装備。

- ・発売以来、グローバル累計で18万台以上を販売し、販売台数世界No.1のEVである「日産リーフ」がマイナーチェンジする。一充電走行距離の大幅向上を実現するとともに、「自動ブレーキ」を全車標準とし、安全性能を向上した。
- ・一充電走行距離が280km（社内測定値）となるグレードを追加し、衝突回避及び衝突時の被害低減を支援する「エマージェンシーブレーキ」、走行中の車線逸脱回避を支援する「LDW（車線逸脱警報）」を全車標準装備している。同車は、2015年11月に日本で発表、同12月に発売予定である。



日産リーフ

日野自動車株式会社

日野自動車株式会社は、世界初公開となる燃料電池バスのコンセプトモデル、大型ハイブリッドトラック、さらに新たな安全技術を搭載した小型トラックなど6台のほか、エンジン2基を出展する。日野の出展テーマは「情熱をはこぶ。夢をとどける」。日野のトラック・バスは、人や物と一緒に情熱や夢ものせて走り、人々の生活を支えている。実物展示とともに、パネル展示により、先進の環境・安全技術や、車の稼働を支える取り組みについてもわかりやすく紹介する。

◇FUEL CELL BUS (フューエル セル バス)

参考出展車



日野の考える燃料電池バスのコンセプトモデル。水素を燃料として自ら発電して走る燃料電池バスは、走行時のCO₂排出量ゼロという高い環境性能に加え、外部給電機能も備えている。将来の水素社会実現に寄与する輸送手段として期待されており、日野は、トヨタグループの一員として燃料電池バスの技術開発を進めている。今回、「暮らしやすい社会を支える移動」をテーマに、日野がユニバーサルデザインの視点から考える、燃料電池バスを中心とした次世代のバス交通システムを提案する。



FUEL CELL BUS (フューエル セル バス)

◇日野プロフィア ハイブリッド

参考出展車



大型トラック「日野プロフィア」をベースとしたハイブリッドトラック。長年の実績を誇る日野のハイブリッド技術を大型トラックに採用。長い距離を走る大型トラックの燃費を追求する、というコンセプトのもと、ハイブリッド技術を走行に用いるだけでなく、そのハイブリッドシステムを応用した電動冷凍システム、空気抵抗を低減するさまざまなアイテム、廃熱回収発電システムなど、燃費向上技術を幅広く紹介する。



日野プロフィア ハイブリッド

◇日野デュトロ ハイブリッド(衝突被害軽減ブレーキ搭載車) 参考出展車



「ヒノノニトン」でおなじみの、小型トラック「日野デュトロ ハイブリッド」。小型ハイブリッドトラックで一番の販売実績を誇る日野デュトロ ハイブリッドに、衝突被害軽減ブレーキを搭載。すでに大型トラック・バスに標準装備となっている衝突被害軽減ブレーキをさらに進化させ、先行車に対する追突回避だけでなく、停止車や歩行者との衝突回避を支援することが可能になった。環境にやさしく、街中の走行をより安全にした小型トラックを紹介する。



日野デュトロ ハイブリッド (衝突被害軽減ブレーキ搭載車)

◇日野セレガ

最新の安全技術を搭載し、快適で安全な旅を演出する大型観光バス「日野セレガ」。今回は、すでに標準装備となっている、ドライバーの顔の向きや眼の開閉状態を検知して注意力低下を警報する「ドライバーモニター」を皆様にご体験いただく。併せて、さらなる安全性の向上にむけた研究開発の一例を紹介する。



日野セレガ

◇HINO500シリーズ

過酷な使用に応えるためのQDR（高品質・耐久性・信頼性）を追求した海外向け最新モデル。世界各国・地域のニーズに合わせた市場適格車として、今年1月インドネシアでの販売開始を皮切りに市場導入を進めており、今後数年間で各地域・市場ごとに適格化して、導入先を広げていく。海外専用モデルのため、国内では出会うことのない日野車である。

参考出展車



HINO500シリーズ

◇日野レンジャー ダカールラリー2014参戦車

1991年の初参戦以来24回連続して出場し、連続完走記録を積み重ねてきた日野レンジャー。日野のチャレンジスピリットと高い耐久性の象徴である。展示車はダカールラリー2014で菅原照仁ドライバーがステアリングを握り、排気量10リッター未満クラス優勝を果たした車両である。ギャラリーを併設し、過去に受賞したトロフィーなどを展示する。

参考出展車

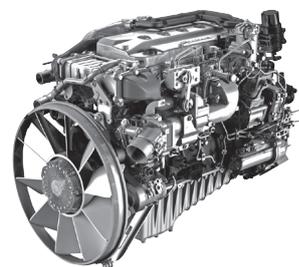


日野レンジャー ダカールラリー2014参戦車

◇A09Cエンジン／A05Cエンジン

高効率で低燃費なディーゼルエンジン2基を実物展示にて紹介する。A09Cエンジンは、主に大型トラック「日野プロフィア」に搭載される、高い環境性能を備えたダウンサイジングエンジン。2007年の発売開始以来、燃費の良さや信頼性の高さで高い評価を受けている。A05Cエンジンは、そのA09Cエンジンをベースにした、主に中型車用のダウンサイジングエンジンで、基本構造は同じとしながらも、世界初採用となる「デインプルライナー*」や超高圧コモンレール等を採用、より進化したエンジンとなっている。A05Cエンジンは、今年の10月1日に発売されたばかりの「日野レンジャーFE」に搭載されている他、今年の12月1日に発売する「日野ブルーリボンハイブリッド」にも搭載される。

※「デインプルライナー」は日野自動車株式会社と日本ピストンリング株式会社との共同開発。



A09Cエンジン



A05Cエンジン

富士重工業株式会社

富士重工業の今回のブーステーマは、「New SUBARU Story」。スバルは安心して楽しいクルマを提供することで、お客様の世界が広がり、人生の新たなストーリーがスタートするきっかけとなることをめざしている。ブースでは、スバルが提供する安心して楽しい世界観を5つの大型スクリーンを活用した劇場型ブース「SUBARU Life Theater」にて紹介する。出展車両は、自動運転機能などの先進安全技術の搭載など、スバルの将来ビジョンを具現化した「SUBARU VIZIV FUTURE CONCEPT^{*1}（スバル ヴィジヴ フューチャー コンセプト）」と次期インプレッサのデザインスタディモデルである「IMPREZA 5-DOOR CONCEPT（インプレッサ ファイブドア コンセプト）」の2種類のコンセプトモデルを世界初公開する。また、「WRX S4」や「レガシィ B4」に特別仕様を施し、上質で豊かな室内空間を提供する「SporVita（スポルヴィータ）シリーズ」、WRX STIをベースとしたSTI^{*2}コンプリートカーである「S207」、フォレスター、SUBARU XVの大幅改良モデルなど、スバルの安心して楽しいクルマづくりを十分感じていただける車両を出展する。

*1：Vision for Innovationを語源とする造語（「革新のための未来像」の意）

*2：スバルテクニカインターナショナル株式会社（代表：平川良夫、東京都三鷹市）

◇SUBARU VIZIV FUTURE CONCEPT

参考出展車



SUBARU VIZIV FUTURE CONCEPTは、スバルがお客様にお届けする安心して楽しいクルマづくりの将来ビジョンを具現化したSUVタイプのコンセプトモデルである。アクティブに出掛けたい気持ちにさせるデザイン・パッケージに加え、アイサイトを進化させた先にある自動運転技術やダウンサイジングターボとハイブリッドシステムを組み合わせたパワーユニットの採用など、スバルらしい安心して楽しいドライビングを実現する次世代技術を提案。お客様にスバル車のあるより豊かでワクワクする生活を提供し、新たな人生のストーリーを生み出していく。SUBARU VIZIV FUTURE CONCEPTを通じてスバルがめざすブランドの未来像を紹介する。



SUBARU VIZIV FUTURE CONCEPT

◇IMPREZA 5-DOOR CONCEPT

参考出展車



インプレッサ コンセプトは、2014年5月に発表した中期経営計画「際立とう2020」において、スバルの新世代モデルの第一弾として位置づける次期インプレッサのデザインをイメージしたコンセプトモデルである。スバルらしいデザイン表現として次世代モデルへ本格採用していく「DYNAMIC（躍動感）×SOLID（塊感）」を核として、スバルデザインに欠かせないドライビングへの期待感を高めるスポーティさや先進性、安心感を高める機能価値を凝縮し、クラスを越えた価値を表現した新世代モデルとしてふさわしいデザインとした。



IMPREZA 5-DOOR CONCEPT

◇WRX S4 SporVita

参考出展車

SporVita（スポルヴィータ）の名称は、イタリア語のSportiva（スポーツ）とVita（人生）を組み合わせ、スバル車の持つスポーツ性能とこだわり抜いた上質な室内空間によってドライバーのカーライフをより豊かに彩っていく、という意味を込めた。

日本メーカーとしては国内初採用となるイタリア老舗革メーカーMario Levi（マリオレヴィ）社とのコラボレーションによる専用本革をシートに採用。トリム・インパネ加飾などの変更によるトータルコーディネートにより、上質でエモーショナルな室内空間を実現した。また、WRX S4のスポーツ性能をより高める245/40R18ハイパフォーマンスタイヤやアイサイトとの組み合わせによって、より高次元な安全性能を提供するアドバンスドセーフティパッケージも標準装備するなど、WRX S4の個性を高めた大人のスポーツセダンにふさわしい仕様のモデルとした。



WRX S4 SporVita

本田技研工業株式会社

Honda四輪車ブースでは、燃料電池自動車「新型FCV（仮称）」を世界初出展。スポーツモデルの新型「NSX」、「CIVIC TYPE R」を日本初出展する。また二輪車と四輪車の価値を融合させた「Honda Project 2&4 powered by RC213V」、近未来のモビリティ「WANDER STAND」「WANDER WALKER」など、これまでの常識や前例をつき抜けていく、新たなチャレンジを提示する。

◇新型FCV（仮称）

参考出展車



ガソリン車同等の使い勝手と燃料電池自動車ならではの魅力を高次元で融合したセダン「新型FCV（仮称）」を提案する。ゆとりあるフルキャビンパッケージ、700km以上（JC08モード走行時、Honda測定値）の航続距離、高出力モーターが生み出す爽快な走り。非常時には“移動する発電所”として電力の供給も行える。



新型FCV（仮称）

◇NSX

参考出展車



初代NSXのDNAを継承し、走りと環境性能を両立した革新的な3モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID SH-AWD®（Super Handling-All Wheel Drive）」を搭載。全速度域でのライントレース性を画期的に向上させている。新時代のスポーツ体験（New Sports eXperience）が始まる。



NSX

◇CIVIC TYPE R

参考出展車



サーキットから街中の一般道まで異次元のドライビングを堪能できる走行性能を獲得した新型「シビックTYPE R」。スポーツモデルらしい魅力と、エアロダイナミクス性能を兼ね備えたデザイン。パワートレインは、新開発「2.0L VTEC TURBOエンジン」を初搭載。



CIVIC TYPE R

◇ODYSSEY HYBRID

参考出展車



広い室内空間と風格のあるスタイリング、爽快で安定感のある走りを高次元で融合した「オデッセイ」に、まもなくハイブリッド車加わる。革新的な2モーターハイブリッドシステム「SPORT HYBRID（スポーツハイブリッド）i-MMD」を搭載。また、Hondaで初めてIPU（バッテリーと制御装置を一体化したユニット）を1列目シート下に配置、広々とした空間を確保している。

※詳細は、ショー当日に発表。

◇Honda Project 2&4 powered by RC213V

参考出展車



二輪車と四輪車双方を開発するモビリティメーカーだからこそ、創造できる価値がある。その想いのもとスタートしたのが「Honda Project 2&4 powered by RC213V」である。二輪車の開放感と四輪車の運動性能を併せ持つ、臨場感あふれる新しいドライビング体験を提案する。



Honda Project 2&4 powered by RC213V

◇Honda WANDER STAND CONCEPT

参考出展車



Hondaは“WANDER = 自由に動き回る”をコンセプトにしたモビリティの開発に取り組んでいる。「Honda WANDER STAND CONCEPT」は、大人二人が並んで乗車でき、全方位駆動車輪機構「Honda Omni Traction Drive System」を応用。細い路地にも気軽に入れて、前後、真横、斜めへの移動も自由自在。さらに自動運転モードでは、モビリティが運転操作を実行する。



Honda WANDER STAND CONCEPT

◇Honda WANDER WALKER CONCEPT

参考出展車



すべての人がいきいきと行き交う近未来の街へHondaが提案するパーソナルモビリティ。コンパクトさ、取り回しの良さを徹底追求し、わずか540mmの全幅と1mの回転半径を実現。歩行者と同じように屋外と屋内を自在に行き来し、自動改札もスムーズに通過できる。



Honda WANDER WALKER CONCEPT

◇N-BOX

参考出展車



画期的な広さで人気の「N-BOX」に、新装備の「IRカット〈遮熱〉/スーパーUVカットプライバシーガラス」をはじめ、「360°スーパーUV・IRカットパッケージ（仮称）」を採用。目に見えない太陽光線のリスクを気にせず、すべての席の乗員が、気持ちよくドライブを楽しめる。



N-BOX

マツダ株式会社

マツダ株式会社（以下、マツダ）は、スポーツカーのコンセプトモデル（以下、マツダスポーツコンセプト）を世界初公開する。また、日本初公開となるクロスオーバーコンセプト「マツダ越KOERU」や、小型オープンスポーツカー「マツダロードスター」のレース仕様車、1967年に発売した「コスモスポーツ」など、計14台を出品する。今回のショーテーマである「マツダは“走る喜び”の未来を切り拓く」に沿って、マツダは「マツダスポーツコンセプト」や「マツダ越KOERU」、SKYACTIV技術及び「魂動（こどう）」デザインテーマを反映したマツダの新世代商品などの車両展示とともに、「ロードスター」のレース仕様車を含むモータースポーツ展示、「コスモスポーツ」とともにマツダのクルマづくりの歩みを紹介するヘリテージ展示を通じて、マツダらしい“走る喜び”を訴求する。

◇マツダスポーツコンセプト

参考出展車



世界初公開となる「マツダスポーツコンセプト」は、新しさの中にスポーツカーの正統を感じさせる、マツダのスポーツカーの歴史を凝縮させたようなスタイリングを備えたモデルである。



マツダスポーツコンセプト

◇マツダ越KOERU

参考出展車



日本初公開となるクロスオーバーのコンセプトモデル「マツダ越KOERU」は、マツダの新世代技術「SKYACTIV技術」及びデザインテーマ「魂動（こどう）-SOUL of MOTION」を全面採用した、スポーティで洗練されたスタイリングと走りを実現したクロスオーバー車。成長著しいクロスオーバー市場に向けたマツダの新提案である。「越KOERU」という名前には、「既存の概念や枠組みを越える価値を提供したい」という思いが込められている。マツダの新世代商品の最新形として、力強い生命力とともに洗練の度合いを深めたスタイリングを持つ「マツダ越 KOERU」は、先鋭的な価値観を持つお客様に向けたクロスオーバー車であり、「走る喜び」を究めようとするマツダの挑戦を体現するクルマである。



マツダ越KOERU

※10月28日から11月3日までの展示

◇マツダロードスター（グローバルMX-5カップ仕様車）

参考出展車

マツダが提供する参加型モータースポーツの中で、もっとも本格的なステージが、2016年から開催を予定しているMX-5（日本名：ロードスター）によるワンメイクレースである。ドライバーは各地域で開催される選手権で競い、戦績優秀なドライバーは世界一を競うグローバル選手権に進む。「SKYACTIV-G 2.0」ガソリンエンジン（輸出仕様）を搭載する、統一仕様のMX-5をベース車両として使用する。



マツダロードスター
（グローバルMX-5カップ仕様車）

◇マツダ ロードスター

「人生を楽しもう - “Joy of the Moment, Joy of Life”」をコンセプトに誕生した、4代目ロードスター。ロードスターならではの「人馬一体」と「Lots of Fun」を研ぎ澄ますため、「感（かん）」をキーワードに、「魂動（こどう）」デザインと「SKYACTIV技術」によるクルマとしての進化とともに、「人がクルマを楽しむ感覚」の進化に注力。こだわり抜いたデザイン、徹底した軽量化など、ロードスターならではの人馬一体の走りや、所有する、鑑賞する、カスタマイズする、仲間と集う喜びといったLots of Funの領域を徹底的に高めている。



マツダ ロードスター

◇マツダ CX-3

2011年以降、「魂動（こどう）」デザインと「SKYACTIV技術」によってすべての基幹車種を刷新したマツダが、次の時代のスタンダードとして提案するために生み出したのがCX-3である。魂動デザインが生み出す美しいプロポーションをもった上質かつスタイリッシュなデザイン。SKYACTIV技術の全面採用と、人の感性に合わせた造り込みにより、素直に運転が楽しいと感じられる走行性能。あらゆる場面での使いやすさを追求したサイズとパッケージング。マツダの最新のデザインと技術で造り上げたCX-3は、都会からアウトドアまで、どんなシーンでも創造的なライフスタイルをサポートする。



マツダ CX-3

◇マツダ デミオ

デミオは、「魂動（こどう）」デザインと「SKYACTIV技術」を全面的に採用した新世代商品の第4弾であり、マツダのDNAを凝縮した新世代商品初のコンパクトカーである。お客様が一切妥協することなく、心からの誇りを持って所有できるクルマをめざし、「クラス概念を打ち破るコンパクト」を志として造り上げた。圧倒的な存在感を放つデザイン、小排気量クリーンディーゼルエンジンなどによる軽快かつ上質な走り、そして先進安全技術による優れた安全性能。クルマの価値はサイズに比例するという既成概念を打ち破り、すべての質を高めたデミオは、その志と商品性が高く評価され、2014-15日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。



マツダ デミオ

三菱自動車工業株式会社

三菱自動車は、「Driving Beyond SUVと電気ので一步先へ。」をテーマに、次世代EVシステムを採用したコンパクトSUVのコンセプトカー『MITSUBISHI eX^{*1} Concept』を世界初披露する。またプラグインハイブリッドEV『アウトランダーPHEV』の展示エリアでは、PHEVシステム及びツインモーター4WDの技術特長を紹介するシャシーモデルや、駆動用バッテリーから家庭等へ電気を供給するV2X^{*2}をイメージした街のジオラマの展示を行い、電動車両の特長をわかりやすくアピールする。さらに、『アウトランダーPHEV』のクロスカントリーラリー参戦車(TEクラス)^{*3}や三菱自動車の電気自動車研究開発50年(1966年10月より)の取り組みを紹介するパネル、50周年を記念したラッピングを施した『i-MiEV(アイ・ミーブ)』を展示。一般公開では、クリーンディーゼル車や軽自動車など、環境にやさしい車両も数多く出展する。新たな価値観を備えた電動車両と最新技術を搭載した市販車により、三菱自動車ブース全体で魅力的なカーライフを提案する。

また、東京モーターショーと同会場で開催される主催者テーマ事業の「SMART MOBILITY CITY 2015」では、『アウトランダーPHEV』とV2H^{*4}機器を用いて“電動車両のある1日”をテーマに家庭でのエネルギーの流れを再現し、電動車両の「停まっている時の価値」について解説する。さらに、「SMART MOBILITY CITY 2015」で開催する「自動運転デモンストレーション(高度運転支援システム)」に三菱電機株式会社と共同研究中の自動運転体験試乗車を提供する。渋滞中でも先行車を検知して追従する低速追従走行機能や超音波センサーにより駐車スペースや障害物を検出し、自動で縦列駐車を行うリモート自動駐車機能を体験できるプログラムを展開する。

*1：eX…electric X(cross)-overの略。

*2：V2X…Vehicle to X(Xは家、ビル、地域などを示す)の略。

*3：バハポルタグレ500…10月22日(木)～24日(土)、ポルトガルにて開催される。

*4：V2H…Vehicle to Homeの略。

◇ MITSUBISHI eX Concept

参考出展車



『MITSUBISHI eX Concept』は、今後ますます成長が予想されるコンパクトSUV市場に向けて三菱自動車が提案する電気自動車のSUVである。三菱自動車ならではの電動車両技術と四輪制御技術をはじめ、コネクテッドカー技術と予防安全技術を組み合わせた自動運転技術などを採用している。

デザインでは、コンパクトSUVにシューティングブレークの持つ上質さとクーペスタイルを融合させ、キビキビと街を疾走するスポーツクロスオーバースタイルを提案している。また、フロントはデザインコンセプト「ダイナミックシールド」をベースに新しいデザインを提案。エクステリア、インテリアのすべてでこれからの三菱自動車のデザインの方向性を示している。



MITSUBISHI eX Concept

三菱ふそうトラック・バス株式会社

三菱ふそうトラック・バス株式会社のブースは、“Running ahead (for the drivers of our tomorrow) ~走り続ける。明日をドライブする人のために~” をテーマに、これから「お客様のために」変わっていく「三菱ふそう」を表現する。「お客様のビジネスをサポート」すること、「日本の物流を支えるドライバーをサポート」することへの思いを込めている。また、ブース内を「青色」「赤色」の二つのカラーゾーンに分け、青色のゾーンは「cool (クール)」、赤色のゾーンは「hot (ホット)」のイメージに基づいた展示を行う。車両展示では、大型トラック2台、小型トラック1台の計3台の車両を展示。また「AERO VR THEATER」(FUSO エアロ VRシアター) では、大型バスの車内をイメージしたブースにバスシートを設置、座りながら、VR (バーチャルリアリティ) ヘッドセットを装着することで、ふそう大型観光バス「エアロクィーン」の安全技術を体感できる。さらに、ダイムラーグループの取り組みとして、乗用車部門のメルセデス・ベンツ日本のブースと当社ブースを隣接して設置するとともに、モーターショー会場と六本木のメルセデス・ベンツコネクションを結ぶ、シャトルバスを運行する。

◇大型トラック「Super Great V “SPIDER”(スーパーグレートV スパイダー)」 参考出展車

ナックルブームクレーンを4基搭載し、多機能でパワフルな「働くクルマ」をイメージしたコンセプトモデルである。



Super Great V “SPIDER”
(スーパーグレートV スパイダー)

◇大型トラック「Super Great V -2016 model-(スーパーグレートV 2016モデル)」

先日販売を開始したFUSOのフラッグシップモデルである。「動力遮断自動制御システム」と「オートクルーズ エコノミーコントロール機能」を新たに搭載し、経済性を向上させた、FU (6×2)「エコドライブパッケージ装着車」である。



Super Great V -2016 model- (スーパーグレートV 2016モデル)

◇小型トラック「Canter 電気供給車(Power Supply Vehicle)」 参考出展車

小型ハイブリッドトラック「キャンター エコ ハイブリッド」をベースに、ハイブリッドモーターをジェネレーター（発電機）として活用することで、非常時に電力供給を可能とした小型トラックである。



Canter 電気供給車 (Power Supply Vehicle)

UDトラック株式会社／ボルボ・トラック・ジャパン

今年創立80周年を迎えるUDトラック株式会社は、「Going the Extra Mile for Smart Logistics」（スマートロジスティクスの実現に向けて、さらに一歩先の未来へ）をテーマに、過去、現在、未来を軸に、燃費・環境性能、運転性能・安全性、稼働率・生産性にフォーカスした展示を行う。1935年の創業時より継承される、「時代が求めるトラックをつくる」というUDトラックのビジョンを具現化する展示内容となっている。主な展示内容は、車両展示として、ワールドプレミアとなる大・中型コンセプトモデルのほか、フラグシップトラック大型「クオン」、[NewボルボFH]を展示する。コンポーネント展示として、幅広い回転域でトルクに優れる「GH11エンジン（11L）」、日本でシェアNo.1を誇る電子制御式トランスミッション「ESCOT-V（エスコット・ファイブ）」を展示。「スマートロジスティクス」の実現に向けた、UDトラックの未来への取り組みをご紹介します。またアフターサービスに関して、お客様の車両に関するさまざまな情報を集約し、タイムリーにお届けする「UDインフォメーションサービス」を最大限活用し、よりプロアクティブなサービスのご提供が可能となる仕組みをご紹介します。

◇UD Trucks “Vision”

参考出展車



UDトラックは、現状に甘んずることなく、さらに一歩先の未来へ向けて挑戦を続けていく。ボルボ・グループの最先端のテクノロジー、UDトラックの80年に渡る経験と精巧な技術、そして現場を重視し尊重する精神、これらの融合により、すべてにおいて、その一歩先へ行くことをお約束する。今回の東京モーターショーでは、大・中型それぞれのワールドプレミア車両を含むスマートロジスティクスの実現に向けた最新のテクノロジーと、UDトラックが描く未来へ向けた取り組みをご紹介します。



UD Trucks “Vision”

フラグシップトラック大型「クオン」

日本市場を中心とする先進国市場向けのフラグシップトラック大型「クオン」は、昨年のリニューアルにより、燃費性能、稼働率、安全性、生産性、そして運転性能をさらなる次元へと進化させた。包括的なアフターサービスを提供する「UDエクストラマイルサポート」との組み合わせにより、トラック保有にかかる総費用の低減を支援する。



フラグシップトラック大型「クオン」

◇ボルボ・トラック主力モデル「NewボルボFH」

2012年に約20年ぶりに設計思想を根本から変えるフルモデルチェンジを行ったボルボ・トラックの主力モデル「ボルボFH」は、発売以来、「2014年インターナショナル・トラック・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど、世界的に高い評価を得る長距離輸送のベストソリューションである。ビジネスの成功への大きな鍵となるドライバーを念頭に設計された新しいボルボFHは、キャブデザインを大幅に変更し、従来の製品に比べて居住性や視認性、操作性を向上。また安全性を重視する日本の顧客ニーズに応え、デュアルビューモニターの標準装備で安全機能をさらに充実。世界トップクラスの革新の技術を備えたボルボFHは、お客様のビジネス効率に貢献するベストソリューションである。



ボルボ・トラック主力モデル「NewボルボFH」

◇GH11エンジン (11L)

GH11エンジンは、幅広い回転域で優れたトルクを出すとともに、「ESCOT-V (エスコット・ファイブ)」との組み合わせにより抜群の燃費性能を誇る。



GH11エンジン (11L)

◇ESCOT-V (12速全自動機械式変速機)

比類のない操作性を提供し、日本でシェアNo.1を誇る電子制御式トランスミッション「ESCOT-V (エスコット・ファイブ)」は、最適なギアを瞬時に自動選択するため、だれでも熟練ドライバーと同等のドライビングと省燃費を可能にする。



ESCOT-V (12速全自動機械式変速機)

川崎重工業株式会社

川崎重工業株式会社は、これまでも、そしてこれからも変わることのない、「Kawasakiが理想とする“走りへのこだわり”」を提案する。

(Kawasakiにとっての理想の走りとは、操ることが悦びに感じられる走りである)

今回のブースでは、ジャパンプレミアモデルとして、常に最高のサーキット性能を追求してきたスーパースポーツバイク「Ninja ZX-10R」、至高のフラッグシップモデル「Ninja ZX-14R」を出展する。いずれのモデルにも“走りへのこだわり”が注がれている。

◇Ninja ZX-10R

参考出展車



デビュー以来世界中のレースシーンで活躍し、サーキットにおける優れた性能が評価されている「Ninja ZX-10R」。そのレース活動で得たノウハウを市販モデルにフィードバックすることで、さらなるサーキット性能向上を果たしている。水冷4ストローク並列4気筒DOHC4バルブエンジン（998cm³）は、クランクシャフトの慣性モーメントを低減することで、コーナー立ち上がりの加速力を強化。同時にシャープなハンドリングも実現している。また、電子制御スロットルバルブを採用することで、燃焼効率をさらに向上。2016年から適用される排出ガス規制「ユーロ4」もクリアするなど、公道走行にも配慮している。メインフレームはディメンションの見直しにより、フロントタイヤの接地感を向上させるとともにコーナリング性能を向上。新採用のバランスフリーフロントフォークは、スーパースポーツ選手権参戦マシンで使用されているフォークと同構造のハイスペックな仕様としている。また、フロントフェアリングを大型化し、ウインドプロテクション性能を高めることでコーナーエントリー時の操作性を向上させた。電子制御の分野においても、「Ninja ZX-10R」は大きな進化を果たしている。最新式の小型慣性計測装置（IMU、Inertial Measurement Unit）とカワサキ独自のダイナミックモデリングプログラムを採用することで、走行時の車体の状態を緻密に演算。より精細に車体姿勢をコントロールできる、カワサキの次世代型電子制御技術が導入されている。



Ninja ZX-10R

◇Ninja ZX-14R

参考出展車



2016年にモデルチェンジを果たす、カワサキを代表するスポーツバイク「Ninjaシリーズ」の最大排気量モデル。1,441cm³並列4気筒エンジンは、強烈な加速性能と高速安定性を発揮するとともに、スムーズで扱いやすい出力特性をも兼ね備える。また、大排気量でありながら独自のモノコックフレームによるコンパクトな車体を実現し、スポーティなハンドリングを可能とした。アジア地域向けモデルではアップハンドルを採用し、さらにリラックスした姿勢で快適にライディングできる。スタンダード仕様に加え、ブレンボ製ブレーキシステムやオーリンズ製TTX39リヤサスペンションを採用したハイグレード仕様を設定し、フラッグシップモデルにふさわしい装備とした。



Ninja ZX-14R

スズキ株式会社

スズキブースのテーマは「SUZUKI NEXT 100」。2020年に100周年を迎えるスズキのめざすものづくりを表現し、「次の100年」に向けた取り組みを感じていただくための製品・技術を提案する。スズキは革新的なアイデアと最先端のテクノロジーで、あなたの未来にモビリティの選択肢を増やしていく。人とモビリティの次の100年のために、スズキは走り始める。今回のブースでは、サブステージに、二輪の参考出品車、さまざまな収納方法が特長の遊べるスクーター「HUSTLER SCOOT（ハスラースクート）」などを展示。また技術展示として、新開発エンジンのカットモデルをはじめ、次世代の技術を体験できる展示、スズキが取り組む環境技術、予防安全技術等を紹介。演出面では、メインステージに据えた約5m×30mの大画面での映像表現に加え、サブステージでの高精細LEDによる背景や、商品の特徴に合わせた床面素材の使い分けにより、スズキのさまざまな商品の使用シーンをわかりやすく伝えるための展示演出を施した。

◇HUSTLER SCOOT（ハスラースクート）

参考出展車



さまざまな収納方法が特長の遊べるスクーター「HUSTLER SCOOT（ハスラースクート）」。

- ・さまざまな用途に対応できる収納スペースを備えた原付スクーターを提案する。
- ・フットスペースの収納ケースは取り外し可能で、シート下に収まらない長い荷物も収納可能とするなどの工夫を満載した。
- ・「ハスラースクート」とは、四輪車のハスラーとともに遊び心を刺激するモデルという意味を込めた。



HUSTLER SCOOT（ハスラースクート）

◇concept GSX (コンセプト ジーエスエックス)

参考出展車



GSXシリーズの可能性を秘めたコンセプトオブジェ「concept GSX (コンセプト ジーエスエックス)」。

- ・スズキは、高性能エンジンを搭載する二輪車に「GSX」の名を冠し、数々の名車を生み出してきた。
- ・扱いやすく力強い特性の直列4気筒エンジンは、燃費性能、耐久性を高い次元で実現させ、その技術をGSX-R1000やハヤブサ、GSX-S1000など多くの“GSXシリーズモデル”に反映してきた。
- ・また今シーズンより、直列4気筒エンジンを搭載した「GSX-RR」で、二輪車レースの最高峰「FIMロードレース世界選手権」MotoGPクラスに復帰している。
- ・スズキは「GSX」の名を冠する高性能バイクの象徴として、このコンセプトオブジェを提案する。
- ・これはスズキの4気筒スポーツモデルの薨のような存在である。スズキのスポーツモデルづくりに取り組む姿勢をカタチにした。ここからスズキの新しいスポーツモデルが誕生していく。



concept GSX (コンセプト ジーエスエックス)

本田技研工業株式会社

Honda二輪車ブースでは、伝統のエンジンを受け継ぐ「コンセプトCB」、スーパーカブの伝統を継承・進化させた「EV-Cub Concept」及び「Super Cub Concept」、本物志向の若者に向けた「GROM 50 Scrambler Concept One」等、ワールドプレミア9車種を世界初出展する。これまでの常識や前例をつき抜けていく、新たなチャレンジを提示する。

◇Concept CB

参考出展車



伝統の空冷直4エンジンを現代に受け継ぐCB1100コンセプトモデル。

「伝統 (Tradition)、先進 (Advance)、空冷 (Air-cooled)」をキーワードに、CB1100を深化させたコンセプトモデル。灯体にLEDを採用しながらも、伝統的な丸目1眼にこだわったヘッドライト。3室構造から2室構造へと変更し、走りに軽快感を生み出すとともに音質に深みを持たせたショートマフラーやフランジレス製法による造形美を湛えたフューエルタンク。また、アルミプレスサイドカバーとメッキパーツが織り成すコンビネーションにこだわるなど、機能性を重視したパーツにもさらなる質感を求め、走りに、存在感に官能的な魅力を追求。大人のライダーを魅了するモデルとなっている。



Concept CB

◇EV-Cub Concept

参考出展車



「継承と進化」をテーマとした、近距離移動用パーソナルコミューター。

「環境にやさしく」「世界中の人々に愛され、生活に役立つ」存在でありたいという想いととも、初代スーパーカブから続く「扱いやすく経済的な二輪車」という考えを継承した近距離移動用パーソナルコミューターである。重量部品であるバッテリーを車体中央の低い位置に配置することで、乗り降りしやすさを確保するとともにマスの集中化と低重心化を図り、取り回しやすい車体を追求。充電は、レッグシールド内側に配置されたプラグにより、家庭用コンセントで充電可能という気軽さ。また、バッテリー自体も着脱可能とすることで、より幅広いシチュエーションに配慮している。カラーリングは、クリーンなイメージと質感の高さを併せ持ったパールホワイトとしている。



EV-Cub Concept

◇Super-Cub Concept

参考出展車



「継承と進化」をテーマとした、低燃費エンジン採用のスーパーカブ。

EV-Cub Conceptが近距離移動を想定したコミューターであるのに対し、Super Cub Conceptでは、1チャージ当たりの航続距離がより長い低燃費エンジンを搭載。初代スーパーカブの「やさしい曲面基調のスタイリング」をモチーフとしながら、よりシンプルに洗練させ、一目でスーパーカブと伝わるデザインとした。車体はHonda独自の使い勝手の良さを追求したレイアウト継承。カラーリングは、キャンディーブルーメタリックとライトブルーパールの組み合わせとすることで初代スーパーカブを想起させながら、より深みと高級感のある色調としている。



Super-Cub Concept

◇GROM 50 Scrambler Concept One

参考出展車



若者にバイク本来の魅力を提供する気軽に楽しめる50ccモデル。

「Neoレトロ スクランブラー」をキーワードに、本物志向の若者に向けたバイクらしいシンプルな車体構成でデザイン。タンクパッドを採用したフューエルタンクやパンチングタイプのマフラーガードなど素材感にまでこだわったノスタルジックな雰囲気と、フル液晶タイプのデジタルメーターや、中央に「HONDA」ロゴを配し周囲のリングが光る、独特なデザインのLEDヘッドライトなどにより新鮮な印象を両立。ガレージの片隅に置いてあるだけでも存在感を放つ質感を持ちながら、普段着で乗れる気軽さも備えたモデルである。



GROM 50 Scrambler Concept One

ヤマハ発動機株式会社

ヤマハ発動機株式会社は、“スポーツマルチ”用途に応える「MT-09」のプラットフォーム展開モデルである「MT-09 TRACER ABS」、日常の扱いやすさに、優れた走行性能を追求したグローバルモデル「YZF-R3 ABS」を展示する。また、10月に発売となった、軽量コンパクトな車体で人気の“MTシリーズ”の新製品「MT-03」「MT-25」も展示する。

◇MT-09 TRACER ABS

「MT-09 TRACER ABS」は、“Sport Multi Tool Bike”のコンセプトのもとに開発、市街地走行からツーリングまで多用途で、スポーティかつ快適な走行性を備えている。“クロスプレーンコンセプト”に基づく846ccの直列3気筒エンジン搭載の「MT-09」をベースに開発した、プラットフォーム展開モデルである。主な特徴は、1) 滑らかな発進性・走行性をサポートするTCS（トラクションコントロールシステム）、2) レイヤー構造を取り入れたフロントカウルやハンドルカバー等によるツーリング時の快適性向上、3) 好みにより高さが調整可能なハンドル・シート・フロントスクリーン、4) 視認性の高い多機能メーターパネル、5) フルLEDヘッドライトなどである。

なお、当社は2013年から進めている中期経営計画のなかで、二輪車事業での新たな取り組みとして“基本プラットフォームをベースにしたバリエーション展開の拡大”を掲げている。この取り組みを国内モデルに初めて展開したのが「MT-09 TRACER ABS」である。



MT-09 TRACER ABS

◇YZF-R3 ABS

「YZF-R3 ABS」は、「YZF-R25」をベースに排気量をアップし、日常域での扱いやすさはそのままに、より優れた走行性能が楽しめるモデルとして開発した。主な特徴は、1) 320ccの水冷・直列2気筒エンジンによる高揚感あるフィーリング、2) 爽快な走行フィーリングを支える軽量フレームとロングリアアーム、3) YZF-RシリーズのDNAを受け継ぐスタイリング、4) 快適なライディングポジション、5) ブレーキ操作をサポートするABS（アンチロックブレーキシステム）などである。



YZF-R3 ABS

◇MT-03 / MT-25

「MT-03」「MT-25」は、<大都会のチーター>をコンセプトに開発し、「MT-09」「MT-07」など“MTシリーズ”共通のシャープで躍動感ある独創的なスタイリングに仕上げた。また、「YZF-R3/R25」をプラットフォームに「MT-03」は320cc、「MT-25」は250ccのエンジンを搭載した。主な特徴は、1) 高揚感あるフィーリングを生み出す軽量コンパクトな水冷・直列2気筒エンジン、2) 軽量フレームとロングリアアーム、3) 市街地での機敏な走行に適したライディングポジション、4) 俊敏な走りをイメージさせるヘッドライトとLEDポジションランプ、5) 機敏さを印象づける燃料タンク&エアーストラウドデザイン、6) ボディの凝縮感を印象づけるアシストグリップ、などである。



MT-03

第44回東京モーターショー2015のイベント

世界一のテクノロジーモーターショーをめざし、乗用車、商用車、二輪車、カロッツェリア、車体、部品・機械器具、自動車関連サービス、SMART MOBILITY CITY 2015を含む総合ショーとして開催する、第44回東京モーターショー2015の各イベントを紹介する。

「きっと、あなたのココロが走り出す」 “Your heart will race.”

◇主催者テーマ事業 SMART MOBILITY CITY 2015

「世界一のテクノロジー・モーターショー」のスローガンのもと、情報発信力で“存在感”のある国際モーターショーをめざすべく、エネルギー・素材・サービスなど多種多様な企業とともに、クルマを核にした「スマートコミュニティ」及び「ITS」における日本の技術の先進性を国内外に発信する企画として、第42回ショー（2011年）にて初めて開催し、今回で3回目を迎える。今回の開催テーマは、「もっと自由に…クルマが変わる、くらしが変わる、社会が変わる。」。エネルギーを選べる自由、情報やサービスを簡単・便利に利用できる自由、海外の方も母国語で、またお体に不自由のある方も、安全、安心、そして簡単、快適に移動できる自由など、さまざまな「自由」がもたらすこれからのクルマ、くらし、社会を提案。そして、2020年を目標とした東京の新たな進化と、その先を展望した先進の都市システムをイメージさせる展示や体験を提供する。

■ SMART MOBILITY CITY 2015 開催概要

名 称	SMART MOBILITY CITY 2015 【SMC2015】		
テ ー マ	もっと自由に…クルマが変わる、くらしが変わる、社会が変わる。		
主 催	一般社団法人 日本自動車工業会		
開催期間	会期：2015年10月29日(木)～11月8日(日)		
	プレスデー	10月28日(水) 8:00～18:00	
		10月29日(木) 8:00～14:00	
	プレビューデー／障がい者手帳をお持ち方の特別見学日	10月29日(木) 14:30～20:00	
	オフィシャルデー	10月30日(金) 9:00～20:00	
	一般公開日	10月30日(金)～11月8日(日)	
・10月30日(金)		12:30～20:00	
・月～土曜日(祝日含む)		10:00～20:00	
	・日曜日	10:00～18:00	
会 場	第44回東京モーターショー2015 会場内 (東京ビッグサイト 西4ホール<6,840m ² >及び屋外展示場<6,000m ² >)		
入 場 料	無料。但し、東京モーターショーの入場券が必要。		
構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・エキシビション：主催者が行うテーマ展示と、民間企業・関係諸団体等の出展による先進技術・製品のプレゼンテーション。 ・テストライド：国内外の次世代自動車モデル（パーソナルモビリティ／超小型モビリティ等）や自動運転・高度運転支援システムのデモンストレーション。 ・カンファレンス：最先端の技術開発動向や新しい文化・ライフスタイルについて、子どもたちまでが理解できるレベルの、多様なプログラムを用意。 		

■エキシビション

テーマパーク型エキシビションとして「明日の街」を創出。クルマメーカーはもとより、情報通信産業・環境・エネルギー技術・素材・都市社会インフラなどの関連企業・団体から、23社・団体191小間が集まり、先進技術や新たなサービスについてのプレゼンテーションを行う。主催者展示として駅や研究所などの公共施設をイメージした以下3つの施設にて、SMC2015のクルマや都市に関わる各種システムや先進技術などを紹介。

・ステーションコア

都市と交通に関する最新技術&システムを紹介する、SMC2015のセントラルステーション。

・パーソナルモビリティ研究所

クルマと人の共生を目指すパーソナルモビリティ研究の最先端技術を紹介。

・クルマとICT&E (Energy/Entertainment) 研究所

自動運転技術やクルマと情報・エネルギー、エンターテインメント等の最新技術を紹介。



会場イメージ図

■テストライド

西4ホール内、主催者展示と併設する形で、「パーソナルモビリティ体験走行、超小型モビリティ体験走行」のコースを設置。屋上展示場では、自動運転・高度運転支援システムのデモンストレーションを実施。

・パーソナルモビリティ体験走行

開催期間：10月29日(木)～11月8日(日)

開催場所：パーソナルモビリティ研究所に併設された体験コーナー

・超小型モビリティ体験走行

開催期間：10月29日(木)～11月8日(日)

開催場所：展示場内のステーションコアから屋外トラックヤードへと続く走行コース

・自動運転・高度運転支援システムデモンストレーション

開催期間：10月30日(金)～11月8日(日)

開催場所：屋上展示場

■カンファレンス

・SMC国際シンポジウム

“自動運転”に関わる日米欧の技術者・有識者による国際シンポジウム。国内外の行政・企業・研究機関等専門家の知見を集め、意見を交わし、自動運転の実現性とその課題、今後のクルマ、暮らし、社会の展望等、広く世界に情報発信する。

テーマ：自動運転は、クルマを、暮らしを、社会をどう変えていくのか

日時：2015年11月6日(金)

会場：東京ビッグサイト 会議棟6階 会議室 (605-608)

主催：一般社団法人 日本自動車工業会

申込方法：東京モーターショーオフィシャル Web サイトの「オンラインチケットサービス (etix)」にて
聴講券 (無料) 付の東京モーターショー入場券を販売。(定員になり次第販売終了)

・SMCフォーラム

クルマの進化は、くらしや都市の関わりを大きく変化させつつある。今東京は大きく変わろうとしている。それは新しい時代のモビリティ都市《SMART MOBILITY CITY》のグローバル・モデルになるに違いない。明日の豊かなクルマと都市とくらしのあり方を、その期待を、そして夢をみんなで語り合う。

テーマ：「もっと自由に…クルマが変わる、くらしが変わる、社会が変わる。」

日時：2015年11月2日(月)

会場：東京ビッグサイト 会議棟6階 会議室 (605-608)

主催：一般社団法人 日本自動車工業会

申込方法：東京モーターショーオフィシャル Webサイトの「オンラインチケットサービス (etix)」にて
聴講券 (無料) 付の東京モーターショー入場券を販売。(定員になり次第販売終了)

モデレーター：慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別招聘教授 株式会社トワング取締役 夏野 剛 氏
ジャーナリスト (IT・自動車) 神尾 寿 氏

・読売新聞主催 未来貢献プロジェクト

「次世代自動車の普及がもたらす、新しい暮らし、新しいビジネス」をメインタイトルに、経済産業省、各自動車メーカーなどと連携し、パネルディスカッションを実施。

パネルディスカッション① テーマ：2020年以降を見据えた次世代自動車普及への取り組み

パネルディスカッション② 第一部：革新的な進化を遂げるEV、PHV

第二部：来るべき水素社会へ～将来に向けた取り組み～

日時：2015年11月1日(日)

会場：東京ビッグサイト 会議棟6階 会議室 (605-608)

主催：読売新聞東京本社

申込方法：読売新聞・WEBにて告知予定。WEBは「読売未来貢献プロジェクト」で検索

参加費：無料 (但し、東京モーターショーへの入場券が必要)

・アドバンス・テクノロジー・セミナー

出展企業による技術・システムのプレゼンテーション・セミナー。具体的な技術交流・ビジネス創造にご活用いただく。

・キッズ・ワークショップ

次代を担う子どもたち (児童・生徒) にクルマと社会のおもしろさを楽しく学びながら、明日への夢を思い描いていただくプログラム。

◇特別企画

■乗用車・二輪車試乗会

・プロの運転による乗用車同乗体験試乗会

日本モータースポーツ推進機構の運営協力を得て、第42回ショー（2011年）から継続して実施している日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）のジャーナリストによる同乗試乗会は、クルマ本来の性能を体感していただくことを目的に、会場内のクローズドコース（屋外展示場）にて行う。今回は実施期間を拡大し、プレビューデー（10月29日（木））に来場者向けにも実施する。

参加方法は当日受付とする。

日 程：10月29日（木）～11月3日（火・祝）6日間

時 間：

・プレビューデー：10月29日（木）14：30～16：30

・一般公開日：10月30日（金）12：30～16：30

10月31日（土）～11月3日（火・祝）10：00～16：30

場 所：屋外展示場

試 乗 券：当日受付、抽選による

参加ブランド：スズキ、スバル、ダイハツ、トヨタ、日産、ホンダ、マツダ、三菱、レクサス、アウディ、シトロエン、ジャガー、DS、BRP、BMW、フォルクスワーゲン、プジョー、ボルシェ、MINI、メルセデス・ベンツ、ランドローバー、ルノー



プロの運転による同乗体験試乗会（前回の東京モーターショー2013でのまよう）

・二輪車試乗会

来場者に二輪車の試乗機会を提供することを目的として第41回ショー（2009年）から継続して実施している二輪車試乗会を会場内のクローズドコース（屋外展示場）にて行う。

参加方法は従来と同様に当日受付とし、加えて、試乗会場には専用コースを設けてビギナー向けの試乗会も実施する予定。

日 程：11月5日（木）～11月8日（日）4日間

時 間：10：00～17：00 ※日没前に終了

場 所：屋外展示場内

試乗券：当日受付、先着順による。

参加ブランド：スズキ、ホンダ、ヤマハ、INDIAN、BMW、VICTORY



二輪車試乗会（前回の東京モーターショー2013でのまよう）

■自動車ジャーナリスト（AJAJ）と巡る東京モーターショー

前回ショーに引き続き、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）の会員有志がガイドとなり、参加者に対し専門家の視点でモーターショーとクルマの魅力をガイドする有料ツアーを実施する。参加者はワイヤレス・インカムヘッドセットを付けていただき、案内役のジャーナリストの説明を会場内でもはっきりと聞くことができる。参加希望者は参加券付入場券を購入いただく。

実施日程（予定）：10月30日（金）、11月2日（月）、11月4日（水）～6日（金）<5日間>

各日4回（①9：30～11：30 ②12：00～14：00 ③14：30～16：30 ④17：00～19：00）

※10月30日（金）は3回目（14：30～）から

募集人数（予定）：1回当たり5グループ、1グループ当たり10名の参加者

1日当たり4回、5日間の開催（10月30日（金）は2回）で合計900名を想定

参加申し込み：東京モーターショーオフィシャルWebサイトの「オンラインチケットサービス（etix）」にて販売。（定員になり次第販売終了）

参加費：ガイドツアー参加券700円＋東京モーターショー前売入場券1,400円
合計 2,100円（消費税込）



自動車ジャーナリスト（AJAJ）と巡る東京モーターショー
（前回の東京モーターショー2013でのまよう）

■東京モーターショーシンポジウム2015（会議棟6階）

自動車業界からの情報発信の一環として、第37回ショー（2003年）より実施している「東京モーターショーシンポジウム」を今回も開催する。クルマをめぐる社会的に関心の高いテーマを取り上げる。参加費は無料であるが、東京モーターショーの入場券が必要となる。

日程		実施者	テーマ	会場
11月3日（火） 事前登録者優先	14：00～ 15：00	一般社団法人 日本自動車工業会	はじめよう！ 楽しいバイクのある暮らし	605 会議室
11月4日（水） 事前登録者優先	13：00～ 15：00	国土交通省 自動車局	交通安全のための予防安全技術 ～これからの車両安全政策のなかで～	605 606 会議室
11月7日（土） 事前登録者優先	15：00～ 16：45	自動車旅行推進機構 （カーたび機構）	カーたびの明日 ～未来のクルマは旅をどう変えるか～	605 606 会議室

※上記は予定のため変更になる場合がある。



シンポジウム（前回の東京モーターショー2013での様子）

■日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）によるガイダンス付小中学生特別見学

第34回ショー（2000年）より継続して行っている、小中学生を対象にした特別見学日を引き続き設定する。前回（第43回・2013年）は日本移動教室協会が発行している「教育ジャーナル」を通じて、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県の約3,298校に案内をしたところ51校3,945名の参加があった。

第44回ショー（2015年）では、前回と同様に同協会が発行する「教育ジャーナル」を通じて1都3県（東京、神奈川、千葉、埼玉）の小学校約3,298校へ案内を行い、前回参加校へのフォローも実施した。さらに、今回ショーでは事前告知の強化として、同協会が発行し、全国約21,000校に無償配布される「移動教室年鑑」（3月25日発行）にも本企画を紹介した。

なお、参加希望校を対象に、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）の現役ジャーナリストがショーの見どころについてガイダンスを行う。

◇関連企画

■トミカコーナー（西3ホール）

第35回ショー（2001年）以来、子どもから絶大な人気を誇る株式会社タカラトミー協賛による、トミカの展示・販売。恒例の東京モーターショー開催記念モデルの「トミカ」12車種（700円・税込）をはじめ「デイズニーモーターズ」（860円・税込）などを販売する。

■第13回全日本学生フォーミュラ大会参加車両の展示（西3ホール）

公益社団法人自動車技術会により、第13回全日本学生フォーミュラ大会（2015年9月1日～5日開催）へ参加した車両を展示する。

展示車両（予定）：

ICV（ガソリンエンジン）総合優秀賞	第2位	京都工芸繊維大学
同	第3位	名古屋工業大学
同	第4位	同志社大学
EVクラス 優勝		静岡理工科大学

*ICV総合優秀賞 第1位はオーストリアのGraz University of Technologyが受賞。

■ソープボックスにのってみよう&記録会（屋外展示場）

NPO法人日本ソープボックスダービーの協力のもと「お客様参加体験型イベント」の一環として、本物のソープボックス^{*}・レースカーの実走行体験と簡易の記録会を実施する。ブレーキが踏める小学生以上ならどなたでも参加可。大人用の車両も用意する予定で、親子で参加できるファミリーイベントとなる。内容は乗り方指導等を含めて1回5分程度。小さいお子様向けには、ソープボックスの実車に乗車のうえ、走行映像を見ることによって、レースの雰囲気を楽しむことが可能なソープボックスカー・シミュレーターを用意。その他、パネル展示などを予定している。

※ソープボックスとは、エンジン等の動力を持たず、原則として重力のみを動力源として走行する車両。

日 程：10月31日（土）、11月1日（日）、3日（祝日・火）、7日（土）、8日（日）

場 所：屋外展示場

対 象：主に小学生以上を対象とする（保護者同伴）

内 容：ソープボックス・レースカー実走行体験とタイムアタック

参 加：当日会場にて先着受付

■グルメキングダム2015（屋外展示場 他）

食べ歩き達人（グルメプロガー）たちのオールスターチーム「たべあるキング」を活用した、飲食販売ブースを展開。グルメ界で名をはせる最強メンバーが集結し、自らのネットワークを生かして、超有名飲食店を中心に誘致する。西ホール・屋外展示場の特設試乗会場手前に8店舗、その他会場内に12店舗出展予定で、日本最大の肉イベント「肉フェス」で2期連続のチャンピオンに輝いた岩手の名店「格之進」や、「浜松餃子まつり2012」、「新浜松餃子決定戦」で最優秀グランプリ受賞の浜松餃子を代表する名店「浜太郎」、日本人初の世界チャンピオン、大西誠によるナポリピッツァ「サルヴァトーレ クオモ」の出店が決定。普段はなかなか出店しない名店を呼び込むことで、前回は上回るホスピタリティを実現する。

■献血、骨髄バンクコーナー

日本赤十字社の協力要請を受け、一般公開日の10月31日（土）から11月8日（日）の9日間、“東展示棟”1階ガレリアの東側屋外と“西展示棟”アトリウム屋外の2カ所に、献血バスを設置し来場者の献血協力を実施する。（第43回ショー実績：献血者数=1,226人、骨髄ドナー登録者数=55人）

第44回東京モーターショー2015—出展者—

(2015年10/1現在)

乗用車 [西展示棟]

日産
マツダ
プジョー[仏]
シトロエン[仏]
DS[仏]
アウディ[独]
フォルクスワーゲン[独]
ボルシェ[独]
ルノー[仏]
アバルト[伊]
アルファロメオ[伊]
フィアット[伊]
ジープ[米]

乗用車 [東展示棟]

ホンダ
スズキ
トヨタ
三菱
ダイハツ
スバル
レクサス
メルセデス・ベンツ[独]
メルセデス・マイバッハ[独]
メルセデスAMG[独]
スマート[独]
ジャガー[英]
ランドローバー[英]
BMW[独]
MINI[英]
アルピナ[独]
ラディカル[英]

商用車 [東展示棟]

いすゞ
日野
三菱ふそう
UD トラックス
ボルボ・トラック[瑞]

二輪車 [東展示棟]

ホンダ
カワサキ
ヤマハ
スズキ
BMW[独]
BRP[加]
INDIAN[米]
VICTORY[米]
POLARIS[米]

カロッツェリア [東展示棟]

KEN OKUYAMA DESIGN
高山自動車

車体 [屋内]

日産車体
トヨタ車体
トヨタ自動車東日本

車体 [屋外]

日本自動車車体工業会
浜名ワークス
花見台自動車

KYB
極東開発工業
日本フルハーブ
日本トレクス
日通商事
新明和工業
須河車体
タダノ
東邦車輛
八千代工業
矢野特殊自動車

SMART MOBILITY CITY 2015 [西展示棟]

経済産業省資源エネルギー庁
旭硝子
エクスマキナ
ヒット
日立オートモティブシステムズメジャメント
ホンダ
ITS Japan
マツダ
国土交通省道路局
環境省
三菱
ナビタイムジャパン
日産
バイオニア
さいたま市
STYLE-D
水素供給・利用技術研究組合
エフエム東京
トヨタ自動車
道路交通情報通信システムセンター
WHILL
ジード
Ninebot Inc.[中]

部品・機械器具 [西展示棟]

大豊工業(株)
イワタボルト(株)
(株)ミクニ
(株)ユーション
(株)今仙電機製作所
八千代工業(株)
デルタ工業(株)
(株)データシステム
(株)タチエス
ミドリホクヨー(株)
KYB(株)
イサム塗料(株)
アルコア・ホイール・プロダクツ・ジャパン(株)
朝日電装(株)
IPF(株)
市光工業(株)
HKT(株)
(株)レイズ
バイオニア(株)
ユアサ工機(株)
大同メタル工業(株)
東京濾器(株)
(株)リケン
日本ピストンリング(株)
日本サーモスタット(株)
(株)杉浦製作所
(株)コイワイ
TPP(株)
(株)ファインシンター
水戸工機(株)
京都機械工具(株)
三輪精機(株)

Samvardhana Motherson Group[印]

部品・機械器具 [東展示棟]

日信工業(株)
(株)エクセディ
協和工業(株)
(株)ヨロズ
日本発条(株)
曙ブレーキ工業(株)
日立金属(株)
日本精工(株)
(株)松井製作所
NTN(株)
アルパイン(株)
富士通(株)
富士通テン(株)
(株)ソニックデザイン
富士機工(株)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)
アイシン・エーアイ(株)
アイシン化工(株)
アイシン精機(株)
アイシン高丘(株)
(株)アドヴィックス
(株)ジェイテクト
(一社)日本自動車部品工業会
(株)アーク
(株)アステア
大野ゴム工業(株)
協栄プリント技研(株)
西岡可鍛工業(株)
藤壺技研工業(株)
丸子警報器(株)
やまと興業(株)
(株)ワイビーシステム
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
ジャトコ(株)
スタンレー電気(株)
(株)東海理化
(株)豊田自動織機
日本特殊陶業(株)
三菱電機(株)
アスモ(株)
アンデン(株)
京三電機(株)
(株)デンソー
浜名湖電装(株)
日立オートモティブシステムズ(株)
(株)日立製作所
NOK(株)
住友理工(株)
住友電気工業(株)
(株)小糸製作所
矢崎総業(株)
(株)クゼー
(株)ケーヒン
マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)
(株)マーレフィルターシステムズ
マーレベアージャパン(株)
日本グッドイヤー(株)
横浜ゴム(株)
ティ・エス・テック(株)
TONE(株)
(株)東日製作所
クラリオン(株)
ポッシュ(株)
(株)ブリヂストン
住友ゴム工業(株)
(株)ミツバ
(株)ベシス
(株)カーメイト

豊田合成(株)
トヨタ紡織(株)
ZF Friedrichshafen AG[独]
Ohlins Racing AB[瑞]
Schaeffler AG[独]
MAHLE GmbH[独]
Continental Automotive Corp.[独]
Robert Bosch GmbH[独]

政府 [西展示棟]

メキシコ大使館商務部PROMEXICO

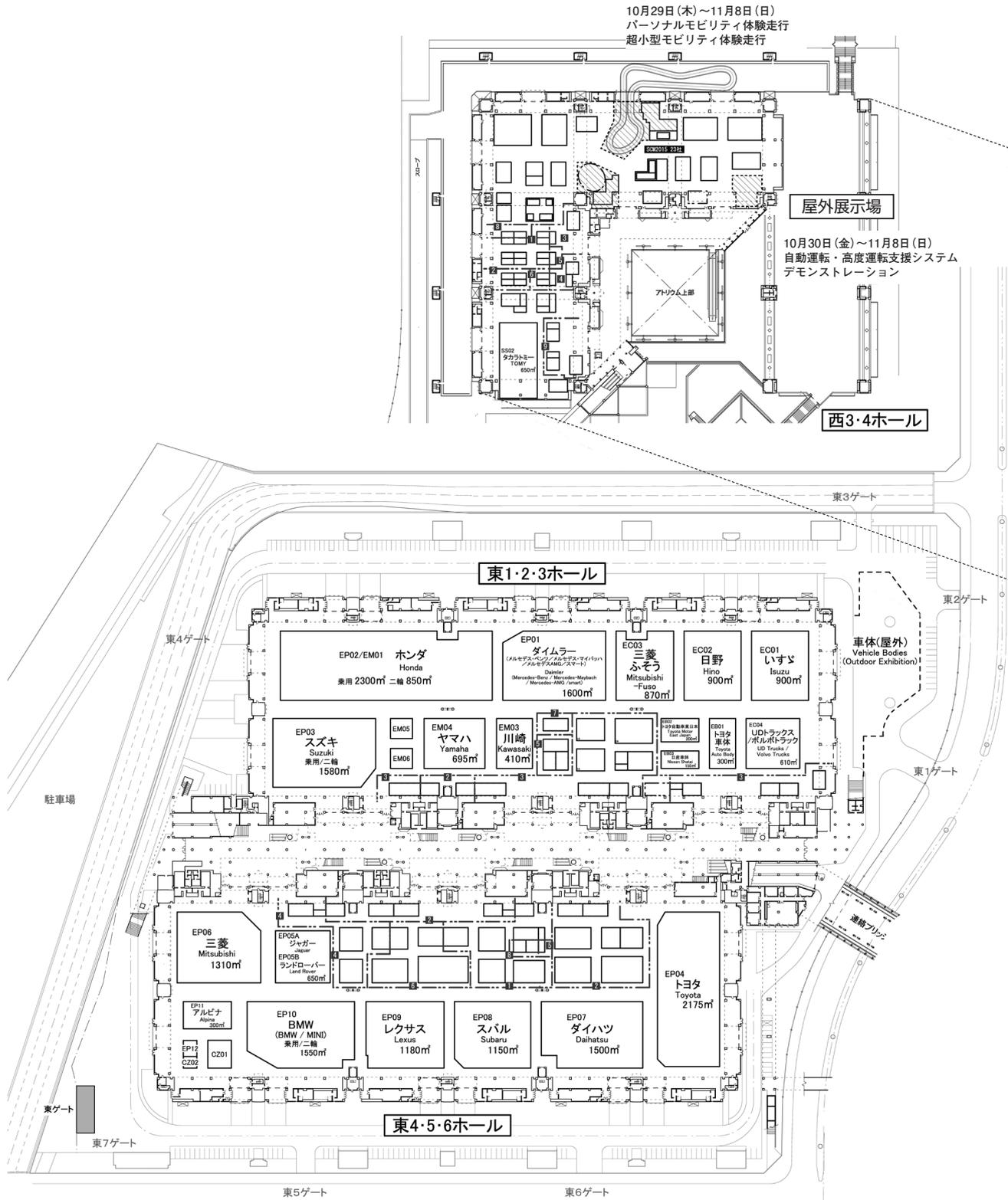
自動車関連サービス [西展示棟]

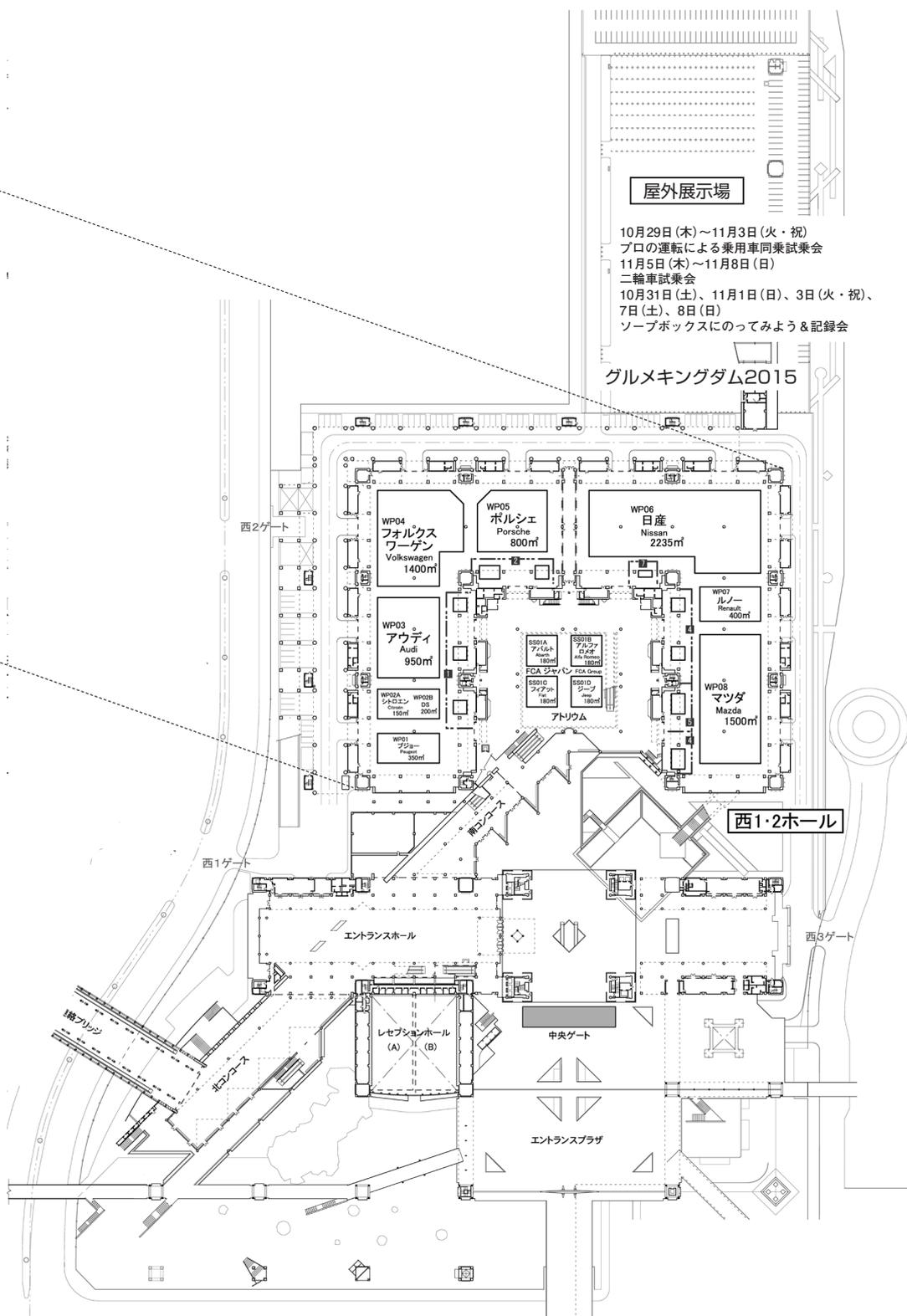
九都県市首脳会議 環境問題対策委員会 大気保全専門部会
(一社)日本自動車連盟
国土交通省 自動車局
(独)自動車事故対策機構
(一社)全国自動車標板協議会

新聞・雑誌コーナー [北コンコース・西展示棟]

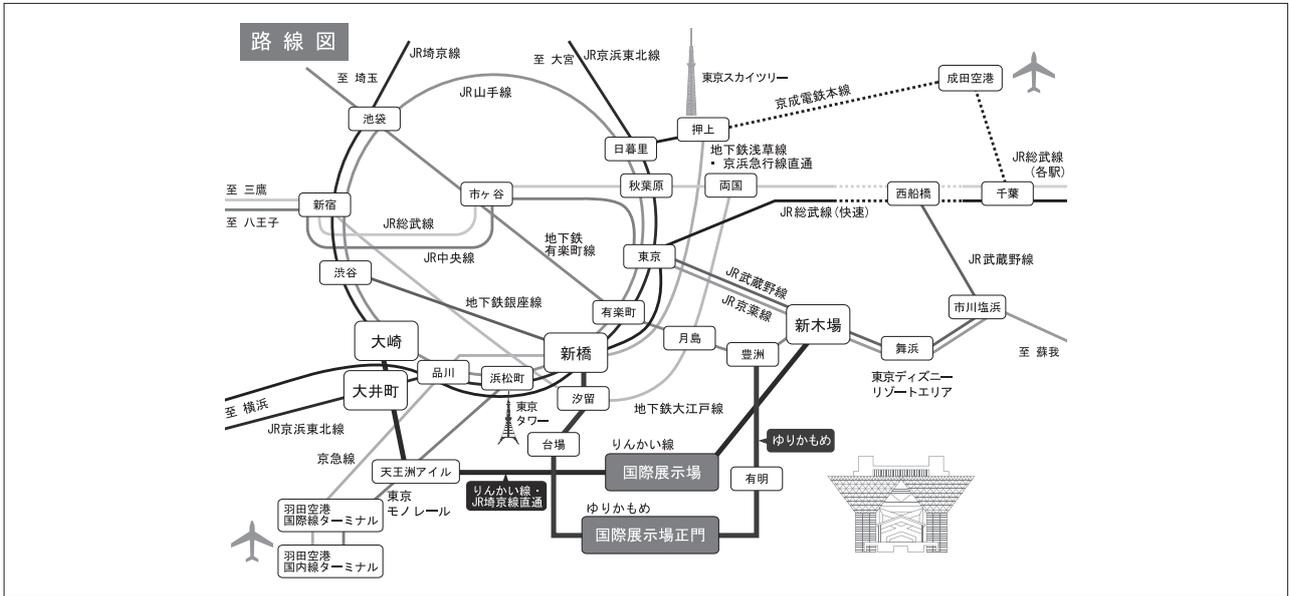
(株)交通毎日新聞社
(株)講談社ビーシー
(株)フォーイン
(株)カーアンドレジャーニュース
(株)ぼると出版
(株)グランプリ出版
(有)三樹書房
(株)日刊自動車新聞社
(株)交通タイムス社
(株)三栄書房
(株)ネコ・パブリッシング
(株)内外出版社
(株)モーターマガジン社
(株)八重洲出版

全体図





交通アクセス



1) 鉄道

(1) りんかい線（「国際展示場」駅下車 徒歩約7分）

①大崎駅 JR埼京線経由（直通）	約13分 330円	②新木場駅	約5分 270円
渋谷駅	約20分 490円		
新宿駅	約25分 500円		
池袋駅	約31分 530円		

(2) ゆりかもめ（「国際展示場正門」駅下車 徒歩約3分）

①新橋駅	約22分 380円	②豊洲駅	約8分 250円
------	-----------	------	----------

※標準所要時間、現金・大人料金

2) 路線バス（東京ビッグサイト・中央ターミナル発着）

(1) 都営バス

①東京駅八重洲口 （東16系）	約40分 210円	②東京駅丸の内南口 （都05系）	約40分 210円	③門前仲町駅 （門19系）	約30分 210円
--------------------	-----------	---------------------	-----------	------------------	-----------

(2) kmフラワーバス

①浜松町駅	約40分 210円
-------	-----------

(3) 京急バス

①横浜駅東口	約50分 820円
--------	-----------

(4) 空港バス（リムジンバス、京急バス）

①羽田空港	約25分 620円	②成田空港 ※東京ベイ有明ワシントンホテル発着 （下車徒歩約3分）	約60分 2,800円
-------	-----------	---	-------------

3) 水上バス（「東京ビッグサイト」下船 徒歩約2分）

①日の出桟橋（浜松町駅から徒歩7分）	約30分 410円
--------------------	-----------

※不定期運航のため、運航状況はWeb等での確認が必要。

会長コメント

2015年10月6日

●TPP(環太平洋パートナーシップ協定)の大筋合意について

TPP交渉が大筋合意したことを歓迎します。

2013年に日本がTPP交渉に参加して以降、2年余りにわたり大変厳しい交渉が続けられてきました。大筋合意に至るまでの日本政府関係者の多大なるご尽力に敬意を表します。

本協定の実現により、これまでの我が国の経済連携協定でカバーされていなかった米国やカナダ等、自動車業界にとっても非常に重要な市場との間の経済連携の枠組みが築かれることになり、さらには、投資、貿易円滑化、知的財産権保護をはじめとする幅広い分野での共通したルールづくりなど、ビジネス環境の整備が一層進むことが期待されます。

とりわけ日本政府の粘り強い交渉により、日米の関係では大部分の自動車部品関税が即時撤廃されること、日カナダの関係では比較的高率な自動車関税が短期間での撤廃で合意されたこと、また、TPP地域全体に適用される原産地規則については、現行のグローバルなサプライチェーンの下で十分に対応できる内容となったことなどを歓迎します。

自動車業界としても、本協定を活かし、お客様のニーズにあった商品・サービスをより幅広く提供することにより、日本経済の発展と域内経済関係の緊密化に貢献していく所存です。

本協定を契機として、日本が現在交渉中の日-EUやRCEP協定(東アジア地域包括的経済連携)等経済連携協定の締結に向けた交渉が一層加速することを望みます。

2015年10月7日

●第3次安倍改造内閣の発足について

本日発足した第3次安倍改造内閣は、経済好循環の流れをさらに拡大・深化していく布陣となっており、安倍総理の経済を最優先するという強い意志の下、内閣が一致団結して、第2ステージに入るアベノミクスの政策を着実に実行していただけるものと期待しております。

国内の新車販売は、昨年の消費税引き上げの影響に加え、本年4月からの軽自動車税の引き上げにより、大変厳しい状況が続いております。

このような中、経済好循環の流れをさらに力強く回すためには、自動車需要を下支えする対策の実施が極めて重要であることから、複雑・過重な自動車関係諸税の簡素化・負担軽減を要望いたします。

また、国内産業の活性化と国際競争力の維持・強化に向けて、法人税改革の継続や研究開発促進税制の拡充を図るとともに、大筋合意されたTPPに続き、現在交渉中の日-EUやRCEP(東アジア地域包括的経済連携)など経済連携協定の締結に向けた交渉の一層の加速をお願い申し上げます。

自工会・2015年 秋季交通安全キャンペーンのご案内

2015年9月15日

一般社団法人日本自動車工業会（会長：池 史彦・以下、自工会）は、9月21日（月）から12月31日（木）までの間、政府の実施する秋の全国交通安全運動*と連動し、「自工会・2015年秋季交通安全キャンペーン」を実施する。

*主催：内閣府他、期間：9月21日（月）から9月30日（水）

2014年中の交通事故発生状況をみると、死者数は4,113人（前年比-260人）で、14年連続で減少した。また、2004年に過去最悪を記録した事故発生件数および負傷者数も10年連続で減少した。しかしながら、依然として死者数、事故発生件数、負傷者数ともに高いレベルにあり、政府として引き続き懸命に交通事故防止対策に取り組んでいるところである。

当会としても、未だ年間71万人を超える人々が交通事故により死傷している厳しい現状があり、交通事故が国民生活の身近な問題であることを踏まえ、一層の車両安全対策に取り組むとともに、交通安全活動の一環として秋季交通安全キャンペーンの実施により安全な交通社会の実現に寄与することとする。

交通事故死者数のうち高齢者の死者数（2,193人）は前年に比べ減少（-110人、-4.8%）したものの、死者数のうち高齢者の死者数が占める割合は53.3%と過去最高となり、高齢者に対する交通安全対策は引き続き喫緊の課題となっている。

よって、「高齢歩行者の死亡事故低減」を主とする秋季交通安全キャンペーンを全国的に展開していくとともに、2012年より始めた地域と連携した交通安全啓発活動への取り組みの一環として、昨年に引き続き静岡県と連携した取り組みも進めていく。

<秋季交通安全キャンペーンの考え方>

●ドライバー向けテーマ：夕方早めのヘッドライト点灯促進

高齢化が急速に進む中で、交通事故死者の半数を高齢者が占め、また、高齢事故死者数の半数近くが歩行中（構成率48.5%）である。

歩行中の死者数を昼夜別にみると、昼間に比べて夜間の構成率が2倍以上（昼間：22.2%、夜間：49.6%）高くなっていることや、例年、秋から年末にかけて夕暮れ時の高齢者の歩行中の死者が増加することから、ドライバーに対し、高齢者の歩行中の交通死亡事故低減のため、夕方早めのヘッドライト点灯を呼び掛ける。

●高齢者向けテーマ：反射材の着用促進

夕暮れ時から夜間は、歩行中及び自転車乗用中は、反射材を着用するよう呼び掛ける。

●二輪ライダー向けテーマ：ヘルメットの正しい着用促進

2014年の二輪車乗車中事故死者697人の損傷部位の42.3%が頭部となっている。

また、697人のうち671人（96.3%）はヘルメットを着用していたが、そのうちの210人（31.3%）は事故時にヘルメットが脱落していることから、二輪ライダーに対し、あごひもをしっかりと締めるなどのヘルメットの正しい着用を呼び掛ける。

<キャンペーン展開の概要>

●ドライバー向けテーマ：夕方早めのヘッドライト点灯促進（9月21日～12月31日）

●高齢者向けテーマ：反射材の着用促進（9月21日～12月31日）

●二輪ライダー向けテーマ：ヘルメットの正しい着用促進（10月1日～10月30日）

<訴求のポイント（ドライバー・高齢者向けキャンペーン）>

実施期間	2015年9月21日（月）～12月31日（木）
テーマ設定	高齢者の歩行中の交通死亡事故低減に向けて、 ・ドライバーに対し、夕方早めのヘッドライト点灯を呼び掛ける。 ・高齢者に対し、反射材の着用を呼び掛ける。
スローガン	・ドライバー：「夕方早めのヘッドライト点灯」 ・高齢者：「反射材の着用促進」

<具体的展開>

全国対策	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeにアニメーション動画を配信（9/21～12/31） ～有名キャラクター「ぼのぼの」を活用した「早めのライトオン/反射材活用」に関するアニメーション動画により理解促進を図る。 ・AMラジオでの全国ネットスポットを展開（10/1～10/30の平日）。 ～人気子役「エヴァちゃん」を起用し、日没前の夕方の時間帯で、乗車中のドライバーに対し、20秒CMで「夕方早めのヘッドライト点灯」を呼び掛ける。 ・大人、高齢者の「反射材着用/早めのヘッドライト点灯」の理解を促進するため、今秋の対策として特に高齢者事故が多い千葉県の幼稚園や保育園で「自発光式反射材」を配布し、園児から祖母、祖父らにプレゼントしてもらい、着用に繋げていく。 ～「自発光式反射材」の他、子供が描く似顔絵用紙やぬりえ、キャンペーンサイト誘因のための交通安全クイズ案内などをセットにして園児に配布し、大人達、特に高齢者に「反射材の着用促進」を訴求する。 ・自工会ホームページにYouTubeのアニメーション動画やラジオCMに誘導するキャンペーンサイトを開設する。 ～サイトではアニメーション動画に沿った交通安全クイズを用意し、クイズ正解者に抽選でプレゼントを行うことにより、動画視聴を促進する。また、サイト上で交通安全フォトコンテストを行い、優秀作品にはプレゼントを用意するなど啓発に努める。
地域対策（静岡県）	<ul style="list-style-type: none"> ・SBS静岡放送のミニ番組に静岡県、静岡県警、交通安全協会出演協力を得て、交通安全を訴えるほか、SBS静岡放送で、「トワイライト・オン・キャンペーン」と題して「夕方早めのライトオン」を呼び掛ける（10/1～12/31の平日）。 ・トワイライト・オン・キャンペーンに賛同する個人や企業を募り、オリジナルステッカーをプレゼントし、早めのライトオンの周知を図る。 ・静岡県主催のイベントなどにSBS静岡放送と共に参加し、横断幕やのぼりを掲げて夕方早めのライトオンを呼び掛けるほか、自発光式反射材などを配布し、交通事故防止を訴える。 ・四輪・二輪販売店は、のぼりやステッカーを掲示し、早めのライトオン啓発に努める。 ・高齢者ドライバーに運転能力を自覚させ、安全運転への心掛けを促すために開発したリーフレットとステッカーを、静岡県等が主催する講習会等の場で活用してもらうことにより、高齢ドライバーの交通事故防止の一助としてもらう。

<訴求のポイント（二輪ライダー向けキャンペーン）>

実施期間	2015年10月1日（木）～10月30日（金）
テーマ設定	・二輪乗車中事故死者のうち、ヘルメットが脱落した者が3割を超えていることから、二輪ライダーに対し、あごひもをしっかり締めるなどのヘルメットの正しい着用を訴求する。
スローガン	・ライダー：「あごひも、しっかり、ヘルメット。」

<具体的展開>

全国対策	<ul style="list-style-type: none"> ・AMラジオでの全国ネットスポットを展開。（10/1～10/30の平日） ・人気子役「エヴァちゃん」が二輪ライダーに対し、20秒CMで「あごひも、しっかり、ヘルメット。」を呼び掛ける。
------	---

第44回東京モーターショー 2015

—東京モーターショー発祥の地で60周年記念パレードを実施—

2015年9月17日

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：池 史彦 / 以下、自工会）は、第44回東京モーターショー2015（会期：10月29日（木）から11月8日（日）、一般公開は10月30日（金）から）の開幕前週の10月24日（土）に「東京モーターショー60周年記念パレード」を実施します。

第1回全日本自動車ショウ（1954年）が東京・日比谷公園で開催され、その後は後楽園競輪場、晴海国際見本市会場、千葉・幕張メッセ、そして現在の東京ビッグサイトと歴史を重ね、昨年2014年に東京モーターショーは、60周年を迎えました。

これを記念し、1950年代から各年代を代表する乗用車・商用車・二輪車（約70台）が、自工会各社トップの参加のもと、東京モーターショー発祥の地である日比谷公園に近い銀座みゆき通りをスタートし、国道1号線の起点である日本橋、そして日本を代表する繁華街・銀座を巡ります。

また、パレード終了後には、日比谷シャンテ周辺の歩行者天国に一部のパレード車両を展示する予定です。

オープニングセレモニーでは、自工会の池会長の登壇をはじめ、パレード車両のドライバーとして参加する自工会各社トップによる、テープカットとフォトセッションを予定しています。

本イベントにより、日本のモータリゼーションの発展を振り返ると共に、その翌週末から開催される第44回東京モーターショー2015開催の告知と盛り上げにつなげて参ります。

なお、参加者やパレード車両等の詳細につきましては、10月1日（木）に発表いたします。

<東京モーターショー60周年記念パレード開催概要（予定）>

実施日時	2015年10月24日（土） 9時～10時30分
スタート	東京・銀座みゆき通り
コース	約6km（銀座みゆき通り～日比谷公園～日本橋～銀座）
参加車両	約70台（国内外の各年代を象徴する乗用車・商用車・二輪車）

【本件に関するお問い合わせ】

東京モーターショー電通事務局
〒104-8161 東京都中央区銀座2-16-7 恒産第3ビル5F
TEL：03-5565-4337
FAX：03-5565-4383
E-MAIL：tms-support@dmc.dentsu.co.jp

「大学キャンパス出張授業2015」の実施について

2015年9月17日

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：池 史彦）は、各地の大学と連携し、若者の「クルマ・バイクへの関心醸成」「自動車産業・ものづくりへの理解促進」に向けた施策「大学キャンパス出張授業2015」を実施します。

本施策は《自動車メーカーのトップ・専門家が自ら大学へ赴き、クルマ・バイクの魅力・楽しさ、日本の自動車産業・ものづくりの重要性を若者へ直接語りかける》という趣旨で、2013年度・2014年度と過去2回実施してきておりますが、いずれの年も総来場者数が4,000人を超える盛況となり、多くの方から「クルマ・バイクへの関心が向上した」といった好意的な評価を頂くなど、若い方々の“クルマ・バイクへの近づき”を感じることができた結果となりました。

当会としては、我々自動車業界側から訴えかけを行うことの重要性を改めて認識し、クルマファン・バイクファン拡大につながる芽をより大きく育てていくためにも、本年度も引き続き本施策を実施することに致しました。

会員全14社から、社長をはじめとするトップレベル・各分野の専門家が講師として登壇し、先端技術やグローバル戦略など幅広いテーマの授業を通じて、クルマ・バイクの魅力や楽しさ、日本のものづくりの重要性を伝えていきます。

また、この出張授業をきっかけに一人でも多くの若い方にクルマ・バイク、ものづくりへの関心を持って頂き、10月末に開幕する第44回東京モーターショー2015に多数のご来場があることを期待しています。

報道の皆様方におかれましては、この出張授業をはじめとする弊会の国内市場 活性化に向けた取り組みを積極的に取り上げて頂き、クルマファン・バイクファンづくりにご協力賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 各授業の日程・問い合わせ先

〈社名〉 トヨタ自動車	日程：9月14日（月）18：00～19：30 場所：葛飾キャンパス 図書館大ホール 講演者：友山 茂樹 専務役員（IT・ITS本部長／事業開発本部長／モータースポーツ副本部長）
〈開催大学〉 東京理科大学	講演テーマ、内容：「クルマはもっと面白くなる！IoTで変わるクルマと社会」 対象：東京理科大学学生、大学院生、OB 【お問い合わせ】 トヨタ自動車㈱ 広報部 TEL：03-3817-9110
〈社名〉 日産自動車	日程：9月25日（金）9：00～10：30 場所：早稲田キャンパス 大隈講堂 講演者：カルロス・ゴーン CEO
〈開催大学〉 早稲田大学	講演テーマ、内容：「カルロス・ゴーン、早大生と“人間力”を語る」 対象：早稲田大学生、大学院生 【お問い合わせ】 日産自動車㈱ グローバル企業広報部 TEL：045-523-5521
〈社名〉 三菱ふそう トラック・バス	日程：9月29日（火）16：30～18：00 場所：豊洲キャンパス 交流棟5階 大講義室 講演者：アルバート・キルヒマン 代表取締役会長
〈開催大学〉 芝浦工業大学	講演テーマ、内容：『メイド・イン・ジャパン』から『メイド・ウィズ・ジャパン』の時代へーAre you ready for グローバル？ 対象：芝浦工業大学生、大学院生 【お問い合わせ】 芝浦工業大学 国際プログラム推進課 TEL：03-5859-7140

今月の話題 TOPICS

《社名》 三菱自動車工業	日程：10月2日（金）18：30～20：00 場所：本郷キャンパス 伊藤謝恩ホール 講演者：相川 哲郎 代表取締役社長兼COO
《開催大学》 東京大学	講演テーマ、内容：「天動説、地動説、電動説！～クルマの価値のコペルニクスの転回～」 対象：東京大学生、大学院生、OB 【お問い合わせ】 三菱自動車工業(株) 広報部 TEL：03-6852-4274
《社名》 マツダ	日程：10月6日（火）13：00～14：30 場所：後楽園キャンパス 5号館 5534号室 講演者：小飼 雅道 代表取締役社長兼CEO
《開催大学》 中央大学	講演テーマ、内容：「No Car, No Life ! 今、私が伝えたいこと」 対象：中央大学生、大学院生、一般 【お問い合わせ】 マツダ(株) 国内広報部 春木 健 TEL：03-3508-5020
《社名》 UDトラックス	日程：①10月7日（水）9：15～10：45 / ②11月11日（水）9：15～10：45 （講義「グローバル企業のビジネス展開」の一環として実施） 場所：四谷キャンパス 11号館 7階719教室 講演者：坂上 優介 取締役会長
《開催大学》 上智大学	講演テーマ、内容：①「グローバルトラックビジネス」 ②「UDトラックス エボリューション」 対象：上智大学生 【お問い合わせ】 UDトラックス(株) 広報（牧野） TEL：080-4638-2248
《社名》 スズキ	日程：10月7日（水）14：40～16：10 場所：理工学部講義棟 A107教室 講演者：鈴木 俊宏 代表取締役社長
《開催大学》 横浜国立大学	講演テーマ、内容：「スズキのものづくり」 対象：横浜国立大学生、大学院生 【お問い合わせ】 スズキ(株) 東京広報課 TEL：03-5425-2158
《社名》 ダイハツ工業	日程：10月8日（木）14：45～16：15 場所：工学部 フロンティア応用科学研究棟 鈴木章ホール 講演者：三井 正則 代表取締役社長
《開催大学》 北海道大学	講演テーマ、内容：「ものづくり 人づくり 夢づくり ～ダイハツ社長のここだけの話～」 対象：北海道大学生 【お問い合わせ】 ダイハツ工業(株) 広報室 TEL：03-4231-8854
《社名》 本田技研工業	日程：10月13日（火）15：15～17：00 場所：四谷キャンパス 2号館 17階会議室 講演者：池 史彦 代表取締役会長
《開催大学》 上智大学	講演テーマ、内容：「『交渉人』池 史彦 ～世界とつながれ！～」 対象：上智大学生 【お問い合わせ】 本田技研工業(株) 広報部 企業広報ブロック（橋本） TEL：03-5412-1512

《社名》 川崎重工業	日程：10月20日（火）14：45～16：15 場所：吉田キャンパス 国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール 講演者：富田 健司 代表取締役常務（モーターサイクル&エンジンカンパニープレジデント）
《開催大学》 京都大学	講演テーマ、内容：「重工業がバイクを創る理由（わけ）— カワサキの挑戦—」 対象：京都大学生 【お問い合わせ】 京都大学 研究推進部産官学連携課（作田・長崎） TEL：075-753-5553
《社名》 ヤマハ発動機	日程：10月21日（水）14：40～16：10 場所：青葉山キャンパス カタールサイエンスキャンパスホール 講演者：柳 弘之 代表取締役社長（ほか東北大学OB社員4名）
《開催大学》 東北大学	講演テーマ、内容：「『広がるモビリティの世界』～個性ある多様性への挑戦」 対象：東北大学生、大学院生 【お問い合わせ】 ヤマハ発動機㈱ コーポレートコミュニケーション部 広報グループ TEL：0538-32-1145
《社名》 日野自動車	日程：10月22日（木）11：10～12：40 場所：市ヶ谷キャンパス 講演者：鈴木 賢二 取締役副社長
《開催大学》 法政大学	講演テーマ、内容：「自動車産業に従事して思うこと」 対象：法政大学生 【お問い合わせ】 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター TEL：03-3264-9420
《社名》 いすゞ自動車	日程：10月22日（木）16：30～18：00 場所：川越キャンパス 7号館 2階721番教室 講演者：片山 正則 代表取締役社長
《開催大学》 東洋大学	講演テーマ、内容：「成長を続ける自動車産業 ～日本の商業車メーカーとしての課題～」 対象：東洋大学生 【お問い合わせ】 いすゞ自動車㈱ 広報部 TEL：03-5471-1138
《社名》 富士重工業	日程：11月26日（木）13：30～15：00 場所：西早稲田キャンパス 57号館 201教室 講演者：吉永 泰之 代表取締役社長
《開催大学》 早稲田大学	講演テーマ、内容：「個性を活かして生きようよ」 対象：早稲田大学生、大学院生 【お問い合わせ】 早稲田大学 理工学術院統合事務・技術センター 技術部 技術企画総務課 TEL：03-5286-3050

注) 通常の授業の一環として行われる回もありますので、取材等を受け入れられない場合もございます。詳細については各社連絡先にお問い合わせください。

※その他、本件全般に関するお問い合わせ
一般社団法人 日本自動車工業会
総務統括部広報室
TEL：03-5405-6119
FAX：03-5405-6136

第12回「日本自動車会館 交通安全キャンペーン」イベント開催

2015年9月25日

今年で12回目となった「日本自動車会館交通安全キャンペーン」のイベントが9月25日（金）に開催され、自動車技術会主催の学生安全技術コンペにて優秀賞を受賞した学生によるプレゼンテーションが行われた。

また、昨年に引き続き交通安全ポスター原画コンテストの表彰式が実施され、多数あった応募作品の中から5名が入賞し、日本自動車会館運営委員会の酒井広報部会長から、賞状と副賞の奨学金が贈られた。

【学生による交通安全技術プレゼンテーション】

芝浦工業大学チーム「ジャイロ効果を用いた二輪車安全回避機能の開発」

【交通安全ポスターコンテスト受賞者】

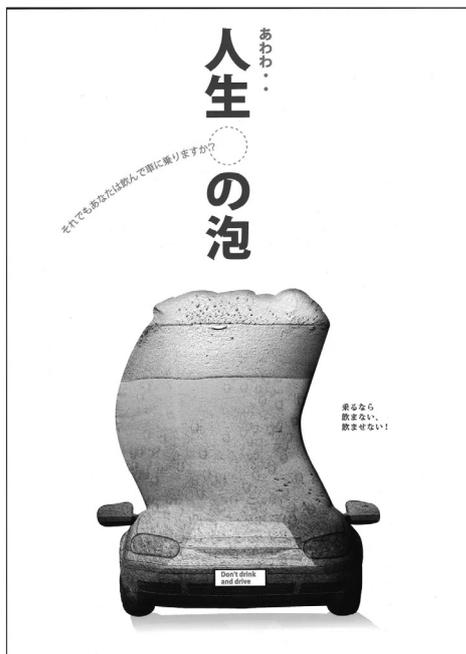
〈最優秀賞〉増本大二郎さん

〈優秀賞〉芳賀菜都美さん

〈入選〉上西保幸さん

〈入選〉竹永絵里さん

〈入選〉武田麻生さん



最優秀賞：増本大二郎さんの作品



左から、竹永さん、芳賀さん

第44回東京モーターショー2015 -10月29日(木)、東京ビッグサイトで開幕-

2015年10月1日

一般社団法人日本自動車工業会(会長:池 史彦/以下、自工会)は、本年10月29日(木)から11月8日(日)までの11日間(一般公開は10月30日(金)から)、江東区・有明の東京ビッグサイトにて、第44回東京モーターショー2015を開催します。

報道関係者招待日(プレスデー)は10月28日(水)と29日(木)の2日間とし、オフィシャルデーの10月30日(金)には、総裁瑤子女王殿下のご臨席を仰ぎ、開会式・ご高覧・祝賀レセプションを執り行います。

第44回東京モーターショー2015は、「きっと、あなたのココロが走り出す」(“Your heart will race.”)をテーマに、世界一のテクノロジーモーターショーを目指し、乗用車、商用車、二輪車、カロッツェリア、車体、部品・機械器具、自動車関連サービス、SMART MOBILITY CITY 2015を含む総合ショーとして開催致します。

世界11ヶ国から合計160社が参加し、国内全ての乗用車・商用車・二輪車メーカー14社15ブランド、海外メーカー16社26ブランド(乗用車・商用車・二輪車)が出展します。FCA(フィアット クライスラー オートモービルズ)グループの4ブランド(アルファ ロメオ/フィアット/ジープ/アバルト(初出展))が8年振りに復帰するほか、フランスのDSが初出展し、メルセデス・マイバッハが復帰するなど、多くの海外ブランドが東京ビッグサイトに集結します。

ワールドプレミアは76台(乗用車42台、商用車6台、二輪車18台、カロッツェリア5台、車体5台)、ジャパンプレミア(日本初の発表)は68台(乗用車49台、商用車1台、二輪車15台、車体3台)が出展される予定です。

(2013年・第43回ショー実績:ワールドプレミア 乗用車40台、商用車3台、二輪車24台、カロッツェリア3台、車体6台、計76台/ジャパンプレミア 乗用車40台、商用車4台、二輪車33台、カロッツェリア2台、車体2台、計81台)

さらに、第44回東京モーターショー2015では、下記の様々な施策により、多くの来場者に東京モーターショーをお楽しみ頂き、前回第43回ショー(2013年)の総入場者数902,800人を一人でも上回ることを目指します。

▼主催者テーマ事業「SMART MOBILITY CITY 2015」

東京モーターショーのシンボルイベントとして主催者が取り組むテーマ事業「SMART MOBILITY CITY 2015」(SMC2015)は、今回で3回目の開催となります。これまでの展示会の概念を大きく進化・変貌させるべく、近未来の「明日の街」を出展者と主催者が一体となって創り上げる他、自動運転をテーマにした国際シンポジウム、自動運転・高度運転支援システムの体験などを組み合わせたユニークな企画となります。

▼記念イベント「東京モーターショー60周年記念パレード」

開幕前週の10月24日(土)に「東京モーターショー60周年記念パレード」を東京モーターショー発祥の地・日比谷で実施します。東京モーターショーは、1954年に第1回全日本自動車ショウが東京・日比谷公園で開催され、昨年60周年を迎えました。これを記念し、自工会の各社トップもドライバーとして参加し、1950年代から現在までの各時代を代表するクルマ約70台が日比谷、日本橋、銀座を巡る6kmのコースをパレードします。

▼メディアイベント「Mobilityscape Tokyo 2015」

プレスデー2日目の10月29日(木)に、日本の自動車産業の競争力や日本メーカーの魅力を「日本ブランド」として世界に発信することを目的としたメディア向けイベント「Mobilityscape Tokyo」を前回ショー(2013年)に引き続き実施します。東京モーターショー会場内で実施する「Mobilityscape Tokyo 2015」は、「日本のモノづくり」と「未来のモビリティ」をテーマに、参加メディアからの質問も受けながら、自工会の正副会長5名によるインタラクティブなトークセッションを行います。

▼プレビューデーの新設と障がい者手帳をお持ちの方の特別見学日

プレスデー2日目の10月29日(木)の午後(14時30分~20時00分)に、プレビューデーを新設し、併せて障がい者手帳をお持ちの方の特別見学日とします。

今回、第43回(2013年)で初めて導入したプレビュー・ナイトを、プレビューデーと名称を改めて、実施時間を前回の2時間30分から5時間30分に拡大します。当日は入場券の購入者(3,500円(中学生以上)、1万枚限定)の他、出展者の招待者も来場します。また、同じ時間帯で「障がい者手帳をお持ちの方の特別見学日」も実施します(参加申込者1,000名様を招待。参加受付は9月30日(水)に終了)。

▼CEATEC JAPAN 2015、第44回東京モーターショー2015とのイベント連携

情報・通信の国内最大の展示会 CEATEC JAPAN 2015(会期:10月7日(水)~10日(土))と第44回東京モーターショー2015が本年10月に開催されます。前回ショー(2013年)に引き続き、本年秋の同時期に開催されることを好機と捉えて、相互PRを実施します。

▼来場者向け参加体験型企画とサービス

【特別企画】

- ・プロの運転による乗用車同乗試乗会
- ・二輪車試乗会
- ・自動車ジャーナリスト(AJAJ)と巡る東京モーターショー
- ・東京モーターショーシンポジウム2015
- ・日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)によるガイド付き小中学生特別見学

【来場者サービス】

- ・会場内シャトルバス(無料)の運行
東西展示棟間の往來をよりスムーズにするため、両展示棟間をつなぐ会場内シャトルバスを今回初めて運行します。(料金は無料)

- ・第44回東京モーターショー2015公式総合アプリ「TMS Mobile」の導入

東京モーターショーの様々な情報を一括で確認できる上に、行きたいブースに案内するナビゲーション、混雑具合が可視化されるヒートマップ、出展ブースやイベントをお気に入り登録できるカスタマイズ機能など、様々な新機軸を内包しています。これ一つで会場が回れる総合情報ツールとなります。

- ・オフィシャル Web サイトや公式 SNS での多彩な情報発信

第44回東京モーターショー2015オフィシャル Web サイト <http://www.tokyo-motorshow.com/>

SMART MOBILITY CITY 2015 Web サイト <http://www.tokyo-motorshow.com/smc/>

SNS (Facebook、Twitter、Instagram)

- ・グルメキングダム2015

食べ歩き達人(グルメブロガー)たちのオールスターチーム「たべあるキング」が選定した飲食販売ブースを展開します。グルメ界で名をはせる最強メンバーが、自らのネットワークを生かして、超有名飲食店を中心に誘致し、普段はイベント会場内になかなか出店しない名店(計20店舗)が集結します。

- ・日刊情報誌 Tokyo Motor Show News

- ・自動車ガイドブック、エコバッグの販売

- ・オフィシャル・グッズ、出展者プレミアムグッズの販売

【告知企画】

- ・Web・TV・新聞・雑誌・ラジオなど様々な媒体を組み合わせた多角的な告知施策企画

若年層に向け「小山薫堂 東京会議」(BSフジ) / 「Tokyo graffiti」(雑誌)とのコラボレーションや、東京モーターショー60周年をキーワードにYAHOO! JAPANとタイアップ等、BSフジや雑誌の企画コンテンツを拡散します。様々な媒体を組み合わせてクルマ好きはもちろんのこと、幅広い層へ多角的に告知を行います。

【関連企画】

- ・「東京モーターフェス2015 with みんなモーター」の自工会後援

第44回東京モーターショー2015開催前の10月10日(土)~11日(日)、及び開催期間中の10月28日(水)~11月8日(日)に、クルマファン・バイクファンの拡大を図ることを目的にお台場エリアで開催される「東京モーターフェス2015 with みんなモーター」に自工会が後援し、開幕直前の告知と来場誘致を目指します。

- ・内閣府主催第2回 SIP-adus Workshop 及び試乗会との告知協力

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム自動走行システム推進委員会の主催による第2回 SIP-adus Workshop(日程:10月27日(火)~29日(木)、場所:東京国際交流会館とその周辺)及び試乗会が開催されます。同時期に会場周辺で行われる自動車関連のイベントであることから、事前告知で協力いたします。

- ・トミカコーナー

- ・ソープボックスにのってみよう&記録会

【東京臨海副都心地域との連携】

- ・プロジェクションマッピング

東京モーターショーでは初めてプロジェクションマッピングを実施します。今回のテーマである「きっと、あなたのココロが走り出す。」をイメージしたオリジナル映像を制作し、東京ビッグサイト会議棟壁面をスクリーンに上映します。

- ・東京モーターショー2015オリジナルトミカが当たる! わくわくスタンプラリー

- ・Tokyo Motor Show News 割引クーポン(会場周辺の商業施設向け)

- ・働くくるま・珍しいくるま大集合

第44回東京モーターショー2015

“Mobilityscape Tokyo 2015”を開催 –プレス向けイベント–

2015年10月1日

一般社団法人日本自動車工業会（会長：池 史彦）は、第44回東京モーターショー2015のプレスデー（10月28日（水）～29日（木））の2日目である10月29日（木）に東京ビッグサイトにて、「Mobilityscape Tokyo 2015」と題して、前回に引き続き、国内外のプレス関係者を対象としたイベントを開催致します。

これは、国内外プレスの方々に、東京モーターショーのみならず日本の自動車産業をより深く知っていただきたいという想いのもと開催するもので、「Automotive Innovation from Japan」をテーマに東京モーターショー主催者である日本自動車工業会の正副会長5名によるトークセッションを行ないます。

今回は登壇者（正副会長5名）とプレスのインタラクティブな対話によって進行するプログラムを予定しており、イベント当日は会場及びSNSで参加者からご質問を頂きつつ、イベントへの事前登録の際に、受け付けたご質問も織り交ぜて、プログラムを進めてまいります。

本イベントは第44回東京モーターショー2015のプレス登録者が対象となり、イベントへの参加は原則事前登録が必要ですので、実施概要をご参照の上お申し込みください。

<実施概要(予定)>

名 称	The 44th Tokyo Motor Show 2015 Mobilityscape Tokyo 2015
日 程	10月29日（木） 8：00～9：30
会 場	東京ビッグサイト 会議棟 7F 国際会議場
テーマ	Automotive Innovation from Japan
構 成	<ウェルカムスピーチ／基調講演> 池 史彦（一般社団法人日本自動車工業会 会長、本田技研工業(株) 代表取締役会長）
	<トークセッション> テーマ1：日本のモノづくり テーマ2：未来のモビリティ 池 史彦（本田技研工業(株) 代表取締役会長） 西川廣人（日産自動車(株) 代表取締役CCO兼副会長） 豊田章男（トヨタ自動車(株) 代表取締役社長） 相川哲郎（三菱自動車工業(株) 代表取締役社長兼COO） 小飼雅道（マツダ(株) 代表取締役社長）
登 録 方 法	第44回東京モーターショー2015オフィシャルウェブサイトにてお申し込みください。 国内プレス： http://www.tokyo-motorshow.com/press/ 海外プレス： http://www.tokyo-motorshow.com/en/press/
	登録締切：10月23日（金）
注 記	※本イベントのご入場には第44回東京モーターショー2015のプレスカードが必要となります。

第44回東京モーターショー2015 オフィシャルスポンサー決定

2015年10月1日

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：池 史彦）は、第44回東京モーターショー2015にご協賛いただくオフィシャルスポンサー（9月25日現在）を次の通り発表致します。スポンサー各社のご協力を得ながら、さらに充実した東京モーターショーになるよう、様々な企画を進めてまいりますので、ご期待ください。

□株式会社タカラトミー（継続）

- ・2001年の第35回ショーから継続してご協賛いただいております。今回も子供から大人まで楽しめるスペースとして好評を博している「トミカコーナー」を設置・運営いただきます。また、毎回好評の東京モーターショー開催記念の「トミカ」も販売します。

□カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（新規）

- ・会員数5519万人が利用するTカードを使った、Tチケットというソリューションでスマートな入場の実現や西3ホールの休憩ゾーンに自動車関連書籍を設置するなど来場者サービスの向上にご協力いただきます。

□株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント（継続）

- ・プレイステーション®専用ソフトウェアリアルドライビングシミュレーター「グランツーリスモ」シリーズのプロモーションブースをイベントプラザにて展開します。

□アサヒビール株式会社（継続）

- ・「第44回東京モーターショー2015 オフィシャルビールテイスト清涼飲料」として、前回に引き続きご協力いただきます。また、これを記念して「アサヒドライゼロ」オリジナルデザイン缶を製造し、このオリジナルデザイン缶を賞品としたオープンキャンペーンも実施中です。

□東日本高速道路株式会社（新規）

- ・24時間365日、高速道路を「安全・安心・快適・便利」にご利用して頂くための取り組みを紹介します。また、「Pasar（パサール）レーシングカー」（インタープロトシリーズに参戦しているレーシングカー）の展示や交通マナーアップキャラクター「マナーティ」のグッズを配布します。

□株式会社バンダイナムコエンターテインメント（新規）

- ・大人気スマートフォンアプリ「ドリフトスピリッツ」の会場でしか体験できない特別試遊イベントや、新開発のスポーツ走行体感マシン「リアルドライブ」がブース内でお楽しみいただけます。

【スポンサーシップに関するお問い合わせ】

第44回東京モーターショー2015スポンサーシップ事務局

TEL：03-5565-4337 / FAX：03-5565-4383

E-mail：tms-support@dmc.dentsu.co.jp

ホームページのご案内

自工会インターネットホームページ
[info DRIVE]

<http://www.jama.or.jp/>



●自工会会員各社のホームページアドレス

いすゞ自動車(株)	http://www.isuzu.co.jp/	富士重工業(株)	http://www.fhi.co.jp/
川崎重工業(株)	http://www.khi.co.jp/	本田技研工業(株)	http://www.honda.co.jp/
スズキ(株)	http://www.suzuki.co.jp/	マツダ(株)	http://www.mazda.co.jp/
ダイハツ工業(株)	http://www.daihatsu.co.jp/	三菱自動車工業(株)	http://www.mitsubishi-motors.co.jp/
トヨタ自動車(株)	http://www.toyota.co.jp/	三菱ふそうトラック・バス(株)	http://www.mitsubishi-fuso.com/
日産自動車(株)	http://www.nissan.co.jp/	ヤマハ発動機(株)	http://www.yamaha-motor.co.jp/
日野自動車(株)	http://www.hino.co.jp/	UDトラックス(株)	http://www.udtrucks.co.jp/

●自工会会友のホームページアドレス

ゼネラルモーターズ・ジャパン(株) <http://www.gmjapan.co.jp/>

●主な自動車関係団体のホームページアドレス

一般社団法人 日本自動車部品工業会	http://www.japia.or.jp/	一般社団法人 自動車再資源化協力機構	http://www.jarp.org/
一般社団法人 日本自動車車体工業会	http://www.jabia.or.jp/	一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会	http://www.jaspa.or.jp/
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会	http://www.jamta.com	一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会	http://www.mfj.or.jp/
公益社団法人 自動車技術会	http://www.jsae.or.jp/	一般社団法人 全国レンタカー協会	http://www.rentacar.or.jp/
一般財団法人 日本自動車研究所	http://www.jari.or.jp/	自動車基準認証国際化研究センター	http://www.jasic.org/
一般財団法人 日本自動車研究所 JNXセンター	http://www.jnx.ne.jp/	一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会	http://www.jucda.or.jp/
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会	http://www.jada.or.jp/	公益社団法人 全日本トラック協会	http://www.jta.or.jp/
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会	http://www.zenkeijikyo.or.jp/	一般社団法人 全国自家用自動車協会	http://www.disclo-koeki.org/
一般社団法人 日本自動車会議所	http://www.aba-j.or.jp/		02b/00479/
一般社団法人 日本自動車連盟	http://www.jaf.or.jp	一般社団法人 日本自動車リース協会連合会	http://jala.or.jp/
日本自動車輸入組合	http://www.jaia-jp.org/	公益社団法人 日本バス協会	http://www.bus.or.jp/
一般社団法人 自動車公正取引協議会	http://www.aftc.or.jp/	公益社団法人 全国通運連盟	http://www.t-renmei.or.jp/
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	http://www.jmpsa.or.jp/	一般社団法人 日本自動車タイヤ協会	http://www.jatma.or.jp/
公益財団法人 日本自動車教育振興財団	http://www.jaef.or.jp/	一般社団法人 自動車用品小売業協会	http://www.apara.jp/
公益財団法人 自動車製造物責任相談センター	http://www.adr.or.jp/		
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター	http://www.jarc.or.jp/		

JAMAGAZINE10月号 vol.49

発行日 平成27年10月22日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室・電話番号 03(5405)6119
印刷 こだま印刷 株式会社

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



風を切って、
気ままに走るバイクの気持ちよさ。

寄り道は バイクならではの 旅の醍醐味!

ちょっと寄って行こう、
これ食べて行こう!
予想しなかった展開や
意外な発見をいっぱい集めよう。

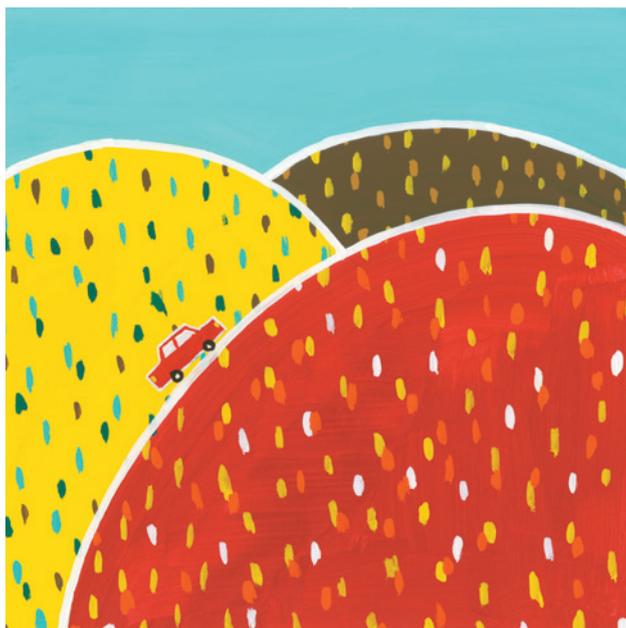
気の向くままに、
好奇心の向くままに、走ろう。

さあバイクで、
Let's YORI-MICHI Touring!

安全運転で楽しいツーリング!!

バイクの正しく安全な使い方については <http://www.anzen-unten.com>

JAMA 一般社団法人 日本自動車工業会
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館



JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

自工会インターネットホームページ「info DRIVE」URL <http://www.jama.or.jp/> 自動車図書館 TEL 03-5405-6139

